

学校の教育目標	<p>「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」</p> <p>1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。</p> <p>2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。</p> <p>3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。</p> <p>4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。</p> <p>5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。</p>
---------	--

教科の目標	<p>○日常で使用する国語的な基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。(知識及び技能)</p> <p>○国語的な思考力・判断力を養い、文章作成や読解に役立てることができる。(思考力、判断力、表現力等)</p> <p>○自主的・意欲的に、情報を調べ、取捨選択し、活用する能力や態度が身につく。(学びに向かう力、人間性等)</p>
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
現代の国語	2	全日制・普通科・1学年	現国710/現代の国語(数研)

科目の目標	<p>・「読む」だけでなく「話す」「聞く」「書く」ことができるようにする。</p> <p>・多読することで論理的思考力と表現力を養成する。</p> <p>・多くの語彙に触れ、文章の構成を分析し、大学受験につながる学力を身につける。</p>
-------	---

時期 月 週	単元名	領域	指導 時数	単元で育成する資質・能力 <単元の評価規準>	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科 等横断的な視 点等
4月	対比を読み取る	C読む こと	6	① 知識・技能 段落同士の役割・対比を知る。 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。〔(1)ア〕	・ 考査	・ 論理的文章の読解方法(対比)を提示し、実践する。	・ 文章を対比の構造で読解する。(〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ア)	評論の読み方 水の東西
				② 思考・判断・表現 段落同士の対比、関連について考える。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。〔C(1)ア〕	・ 考査			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 国際社会の多様性を対比構成で読み解く。 文章の論理展開や表現を粘り強く読み取って筆者の主張を理解し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	・ 発表			
5月	根拠を読み取る	C読む こと	6	① 知識・技能 段落冒頭の接続語の役割を知る。 文、話、文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解している。〔(1)オ〕	・ 考査	・ 論理的文章の読解方法(接続語・指示語)を提示し、実践する。	・ 文章を接続後の知識を使って読解する。(〔思考力、判断力、表現力等〕C(2)ア)	「わらしべ長者」の経済学 ポスト・ブライバシー ・ 公民
				② 思考・判断・表現 段落冒頭の接続語、指示語について考える。段落同士の対比、関連について考える。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。〔C(1)ア〕	・ 考査			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 交換による経済学的価値の創造という基本原則を理解し、人生で本当に大きな利益を得るということを考える。 自分の考えが適切に伝わるように、主張や論拠の説明を積極的に補足しながら意見交換を行い、学習課題に沿って自分の考えをさらに深めようとしている。	・ 発表			
6月	書き手の意図をつかむ	C読む こと	8	① 知識・技能 抽象的な筆者の見解と、それに対応する具体例を見分ける。 言葉には、認識や思考を支える働きがあることを理解している。〔(1)ア〕	・ 考査	・ 論理的文章の読解方法(抽象・具体)を提示し、実践する。	・ 文章を論理の展開を踏まえて読解する。(〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ア)	ものづくり
				② 思考・判断・表現 言葉がものを存在させるということを考える。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。〔C(1)ア〕	・ 考査			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 ことばの本質について考え、それに取り組む。 筆者の意見を踏まえた具体的事例を粘り強く分析し、学習課題に沿って自分の考えを深めようとしている。	・ 発表			
7月	社会の中の文章	B書く こと	6	① 知識・技能 実用文にふれることで、内容の分析を行う。	・ 考査	・ 論理的文章の読解方法(実用文)を提示し、実践する。	・ 実用の文章を読解し、内容周知のパンフレットを作成する。(〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ)	目的に合わせて表現を工夫する 資料を分析して考えをまとめる 課題を発見し解決策を発表する コミュニケーションの手段を考える 文章の構成を工夫して提案する
				② 思考・判断・表現 実用文の表現の特徴について考える。	・ 考査			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 実用文から読み取れることをまとめる。	・ 発表			
9月	書き手の考えを比較する	C読む こと	6	① 知識・技能 指示語の対象となる箇所を読み取る。 主張と論拠について理解している。〔(2)ア〕	・ 考査	・ 論理的文章の読解方法(指示語・分析)を提示し、実践する。	・ 指示語の対象を見つけて文章を読解する。(〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ア)	科学と非科学 ・ 理科
				② 思考・判断・表現 文章中の表現について考える。 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、要旨や要点を把握している。〔C(1)ア〕	・ 考査			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 筆者のいう、人が科学と非科学とに分かれる遠因について考える。 筆者の表現を積極的に読み解いて、その主張を理解したうえで、学習課題に沿って自分の意見を具体的に述べようとしている。	・ 発表			

10月	文章の展開を把握する	C読むこと	8	① 知識・技能 言い換え表現を理解し、それを発見できる。実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めている。〔(3)ア〕	・ 考査	・ 論理的文章の読解方法(言い換え)を提示し、実践する。	・ 言い換え表現は重要事項を言い換えていることを踏まえて文章を読解する。(〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ア)	時間とは何か
				② 思考・判断・表現 論理の展開の中で、筆者の主張を捉える。「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、などについて叙述を基に的確に捉えたいうえで要旨や要点を把握し、自分の考えを深めている。〔C(1)ア〕	・ 考査			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 自分にとって時間はどのようなものか考える。同じテーマの文章を積極的に読み解き、学習課題に沿って自分の考えを発表しようとしている。	・ 発表			
11月	言葉の動きをとらえる	C読むこと	8	① 知識・技能 「外来語」について調べる。実社会において理解したり表現したりするために必要な語句や語彙の構造や特色、用法及び表記の仕方などを理解し、語彙を豊かにしている。〔(1)エ〕	・ 考査	・ 論理的文章の読解方法(問題提起)を提示し、実践する。	・ 筆者の主張を捉えることを主眼に置き、文章を読解する。(〔思考力、判断力、表現力等〕C(1)ア)	語幹トレーニング
				② 思考・判断・表現 文章中の問題提起部分について考える。また、抽象的な筆書の見解とそれに対応する具体例を把握する。「読むこと」において、文章の内容や構成、論理の展開などについて叙述を基に的確に捉え、それを踏	・ 考査			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 筆者が論じる問題を積極的に自分に引きつけて考察し、学習課題に沿って適切に説明しようとしている。	・ 発表			
12月	文章の展開を把握する	C読むこと	6	① 知識・技能 言い換え表現を理解し、それを発見できる。実社会との関わりを考えるための読書の意義と効用について理解を深めている。〔(3)ア〕	・ 考査	・ 論理的文章の読解方法(言い換え)を提示し、実践する。	・ 文章を読解し、意見をまとめる。(〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)イ)	地球を旅する水の話 ・ 理科
				② 思考・判断・表現 論理の展開の中で、筆者の主張を捉える。「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、などについて叙述を基に的確に捉えたいうえで要旨や要点を把握し、自分の考えを深めている。〔C(1)ア〕	・ 考査			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 自分にとって水はどのようなものか考える。同じテーマの文章を積極的に読み解き、学習課題に沿って自分の考えを発表しようとしている。	・ 発表			
1月	対比を読み取る	C読むこと	6	① 知識・技能 主張と論拠など里山と自然との関係について理解している。〔(2)ア〕	・ 考査	・ 既習の論理的文章の読解方法に基づき、自力で筆者の主張を捉え、それに対する自分の意見をまとめる。	・ 文章を読解し、意見をまとめる。(〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)ウ)	里山物語
				② 思考・判断・表現 「そんなふうにも思ってみると、里山というのは意味深いものである」とあるが、ここから考えられる筆者の考えを判断する。「書くこと」において、読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫している。〔B(1)イ〕	・ 考査			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 筆者の主張を的確に理解したうえで積極的に自分の考えを深め、学習課題に沿って条件に即した形で論述しようとしている。	・ 発表			
2月	コミュニケーションと言葉	C読むこと	6	① 知識・技能 比喩、例示、言い換えなどの修辞や、直接的な述べ方や婉曲的な述べ方について理解し使っている。〔(1)カ〕	・ 考査	・ 既習の論理的文章の読解方法に基づき、自力で筆者の主張を捉え、それに対する自分の意見をまとめる。	・ 修辞法を理解し、文章を読解し、意見をまとめる。(〔思考力、判断力、表現力等〕B(1)イ)	世間話はなぜするか
				② 思考・判断・表現 本文で述べられている世間話の効用について、自らの意見を考えられている。「書くこと」において、目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、自分の文章の特長や課題を捉え直している。〔B(1)エ〕	・ 考査			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 世間話や挨拶における「話し手の『伝達意図』」についてまとめようとしている。	・ 発表			
3月	日常の中の文章	C読むこと	4	① 知識・技能 実用文にふれることで、内容の分析を行う。	・ 考査	・ 論理的文章の読解方法(実用文)を提示し、実践する。	・ 文章を読解し、意見をまとめる。(〔思考力、判断力、表現力等〕B(2)ウ)	目的に合わせて表現を工夫する資料を分析して考えをまとめる課題を発見し解決策を発表するコミュニケーションの手段を考える文章の構成を工夫して提案する
				② 思考・判断・表現 実用文の表現の特徴について考える。	・ 考査			
				③ 主体的に学習に取り組む態度 実用文から読み取れることをまとめる。	・ 発表			
領域ごとの指導時間数の計	話すこと・聞くこと		20					
	書くこと		30					
	読むこと		20					
指導時間数の合計			70					

学校の教育目標	<p>「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」</p> <p>1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。</p> <p>2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。</p> <p>3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。</p> <p>4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。</p> <p>5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。</p>
---------	--

教科の目標	<p>○日常で使用する国語的な基礎的・基本的な知識・技能を身につけることができる。(知識及び技能)</p> <p>○国語的な思考力・判断力を養い、文章作成や読解に役立てることができる。(思考力、判断力、表現力等)</p> <p>○自主的・意欲的に、情報を調べ、取捨選択し、活用する能力や態度が身につく。(学びに向かう力、人間性等)</p>
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
言語文化	2	全日制・普通科・1学年	言文709/言語文化(数研)

科目の目標	<p>・「読む」だけでなく「話す」「聞く」「書く」ことができるようになる。</p> <p>・「言語文化」の継承と発展につながる学力を身につける。</p> <p>・古典文法や漢文の句法等、大学受験につながる学力を身につける。</p>
-------	---

時期 月 週	単元名	領域	指導 時数	単元で育成する資質・能力 ＜単元の評価規準＞	評価方法	主な学習活動	主な言語活動	教材及び教科 等横断的な視 点等
4月	【古文】古文に親しもう 【漢文】日本語の中に生きる漢文	B読む こと	6	<p>① 知識・技能 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。〔2ウ〕 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。〔2ア〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。〔B(1)イ〕 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。〔B(1)オ〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 漢文に由来する学校名・会社名・人名などを調べて発表する課題において、積極的に自分の考えを説明しようとしている。</p>	<p>・ 考査</p> <p>・ レポート(提出物)</p> <p>・ 発表</p>	<p>古典文法の基礎、漢文の基礎を学ぶ。</p>	<p>歴史的仮名遣いと現代仮名遣いについて学習する。(B(1)ア)</p>	<p>【古文】いろは歌 【漢文】訓読のきまり</p>
5月	【漢文】日本語の中に生きる漢文 【小説】受け継がれる古典	B読む こと	6	<p>① 知識・技能 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。〔2ア〕 文章の意味は、文脈の中で形成されていることを理解している。〔1)エ〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。〔B(1)エ〕 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。〔B(1)ア〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 漢文に由来する学校名・会社名・人名などを調べて発表する課題において、積極的に自分の考えを説明しようとしている。 積極的に改稿前と後の文章の印象の違いを捉え、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。</p>	<p>・ 考査</p> <p>・ レポート(提出物)</p> <p>・ 発表</p>	<p>漢文の基礎を学ぶ。小説読解の基礎を学ぶ。</p>	<p>訓読について学ぶ。小説を音読する。(B(1)ア)</p>	<p>【漢文】格言 【小説】羅生門</p>
6月	【古文】古文の世界を楽しむ 【漢文】故事と成語	B読む こと	8	<p>① 知識・技能 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。〔2ウ〕 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。〔2ア〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。〔B(1)エ〕 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。〔B(1)ア〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 人々が説話を伝えようとした理由を粘り強く分析し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。 漢文に由来する学校名・会社名・人名などを調べて発表する課題において、積極的に自分の考えを説明しようとしている。</p>	<p>・ 考査</p> <p>・ レポート(提出物)</p> <p>・ 発表</p>	<p>基礎的な文法事項を復習し、しっかり身につける。</p>	<p>音読することで、歴史的仮名遣いをしっかり身につける。(B(1)ウ)</p>	<p>【古文】児のそら寝 【漢文】漁夫之利</p>
7月	【詩歌】詩歌を味わう 【古文】和歌が作り出す世界	B読む こと	6	<p>① 知識・技能 我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。〔1)ウ〕 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。〔2ウ〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。〔B(1)イ〕 「書くこと」において、自分の知識や体験の中から適切な題材を決め、集めた材料のよさや味わいを吟味して、表現したいことを明確にしている。〔A(1)ア〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 学習課題に沿って、粘り強く鑑賞文の作成に取り組もうとしている。 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。〔B(1)イ〕</p>	<p>・ 考査</p> <p>・ レポート(提出物)</p> <p>・ 発表</p>	<p>和歌(短歌)は何を表現するものかを考える。</p>	<p>韻文について学ぶ。(B(2)エ)</p>	<p>【詩歌】短歌 【古文】和歌 古今和歌集</p>

9月	【漢文】故事と成語 【小説】「ことば」を吟味する	B読むこと	6	① 知識・技能 句法(否定・疑問)について学習する。我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。〔2ア〕 文章の意味は、文脈の中で形成されていることを理解している。〔1エ〕 ② 思考・判断・表現 「助長」の意味について考える。「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。〔B(1)ア〕 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。〔B(1)イ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 「助長」は、なぜ「孟子」という古典で学ぶかを考え、発表する。 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	・ 考査 ・ レポート(提出物) ・ 発表	句法について学習する。	故事成語はどういったものを学ぶ。(B(2)ウ)	【漢文】助長 【小説】舟を編む
10月	【古文】現代に生きる教え 【漢文】故事と成語	B読むこと	8	① 知識・技能 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。〔2ウ〕 随筆・史伝とはどういったものか学ぶ。古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。〔2イ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、自分のものの見方、感じ方、考え方を深め、我が国の言語文化について自分の考えをもっている。〔B(1)オ〕 管仲と鮑叔の二人の関係について考える。「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。〔B(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 句読点の違いによる解釈の差異について粘り強く考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。 友情について考え、発表する。進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って調査・発表に取り組んでいる。	・ 考査 ・ レポート(提出物) ・ 発表	基礎的な文法事項を復習し、しっかり身につける。	音読することで、歴史的仮名遣いをしっかり身につける。(B(1)ウ)	【古文】徒然草 ある人、弓射ることを習ふに 【漢文】管鮑之交
11月	【小説】地域のことば 【古文】現代に生きる教え	B読むこと	8	① 知識・技能 小説の風景描写が意味するものを学ぶ。文章の意味は、文脈の中で形成されていることを理解している。〔1エ〕 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。〔2ウ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品や文章に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉え、内容を解釈している。〔B(1)イ〕 徒然草の「道を学」ぶ心、小説の「生き物の寂しさ」を考える。 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。〔B(1)ウ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 進んで作品内容を解釈し、学習課題に沿って文章にまとめようとしている。自分の考えをまとめる。 積極的に漢文調の表現について考察し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。	・ 考査 ・ レポート(提出物) ・ 発表	小説の心情はどのように表現されるのかについて考える。	作者が工夫したと思われる表現を探す。(B(1)エ)	【小説】とんかつ 【古文】徒然草 高名の木登り
12月	【漢文】漢詩を味わう 【小説】記録する文学 【詩歌】詩歌を味わう	B読むこと	6	① 知識・技能 漢詩の基礎知識、沖繩戦、俳句の基礎を学ぶ。 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。〔2ア〕 文章の意味は、文脈の中で形成されていることを理解している。〔1エ〕 ② 思考・判断・表現 漢詩の知識をもとに、その詩の主題について考える。「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。〔B(1)エ〕 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。〔B(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 詩の主題を考察し、まとめて発表する。由来について諸説ある漢語「葡萄」「琵琶」の語源説を調べる活動において、粘り強く調査に取り組んでいる。率先して周囲と協調しながら根拠立てて話し合いに取り組んでいる。	・ 考査 ・ レポート(提出物) ・ 発表	漢詩において、作者の心情はどのように表現されるのかについて考える。	対句等の漢詩の表現について考える。(B(2)オ)	【漢文】漢詩 【小説】沖繩の手記から 【詩歌】俳句
1月	【古文】昔と変わらない人の心 【漢文】論語のことば	B読むこと	6	① 知識・技能 歌物語、歌の技巧、論語とはどういったものか学ぶ。古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。〔2ウ〕 我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。〔2ア〕 ② 思考・判断・表現 歌物語と、歌を含む物語の違いについて考える。「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。〔B(1)ア〕 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。〔B(1)エ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 粘り強く地の文と和歌の関係性を読み解き、今までの学習を生かして本文全体を解釈しようとしている。 教材本文の解釈上の異説を調べる活動において、粘り強く調査に取り組んでいる。	・ 考査 ・ レポート(提出物) ・ 発表	歌物語・中国の思想について学ぶ。	文章の中での、和歌の働きを考える。(B(2)エ)	【古文】伊勢物語 筒井筒 【漢文】論語
2月	【小説】文体の魅力 【古文】戦下の人間像	B読むこと	6	① 知識・技能 文章の意味は、文脈の中で形成されていることを理解している。〔1エ〕 軍記物語について学ぶ。古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。〔2ウ〕 ② 思考・判断・表現 「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開などについて叙述を基に的確に捉えている。〔B(1)ア〕 「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方、表現の特色について評価している。〔B(1)ウ〕 ③ 主体的に学習に取り組む態度 朗読ができた。これまでの学習を生かして考えようとしている。 積極的に本文の表現について分析し、学習課題に沿ってその効果を考察しようとしている。	・ 考査 ・ レポート(提出物) ・ 発表	『山月記』で主人公が虎になった理由を考える。	『山月記』の表現上の特色及び、その効果を考える。(B(1)オ)	【小説】山月記 【古文】平家物語

3月	【漢文】日本の漢詩 【古文】先人を思う旅	B読むこと	4	<p>① 知識・技能 日本漢詩文、江戸文学について学ぶ。我が国の言語文化の特質や我が国の文化と外国の文化との関係について理解している。〔2ア〕 古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。〔2ウ〕</p> <p>② 思考・判断・表現 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。〔B(1)エ〕 俳諧、俳文とはどういったものか考える。 「読むこと」において、作品や文章の成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、内容の解釈を深めている。〔B(1)エ〕</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 漢詩の暗唱ができた。日本漢詩文を調べる活動において、粘り強く調査に取り組んでいる。 改作前後の句について粘り強く比較し、学習課題に沿って話し合いに参加しようとしている。</p>	<p>・ 考査 江戸時代の俳諧について考える。典故を踏まえて俳文を読む。</p> <p>・ レポート(提出物)</p> <p>・ 発表</p>	漢詩を音読する。(B(1)エ)	【漢文】日本の詩 【古文】おくのほそ道
領域ごとの指導時間数の計	話すこと・聞くこと		5				
	書くこと		45				
	読むこと		20				
指導時間数の合計			70				

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) 世界の生活文化の多様性や、防災、地域や地球的課題への取組などを理解するとともに、地図や地理情報システムなどを用いて、調査や諸資料から地理に関する様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けている。 ○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) 地理に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、位置や分布、場所、人間と自然環境との相互依存関係、空間的相互依存作用、地域などに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、地理的な課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらをもとに議論したりする力を養う。 ○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等) 地理に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土に対する愛情、世界の諸地域の多様な生活文化を尊重しようとする大切さについての自覚などを深める。
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
地理総合	2	全日制・普通科・1学年	高校生の地理総合(帝国書院)

科目の目標	地理学習において主体的・対話的で深い学びを実現するために、社会的諸事象の地理的な見方・考え方に根ざした追究の視点とそれを活かして解決すべき課題を設定し、その課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化が進み国際理解の必要性が増している現代において、主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての重要な資質・能力を培う。
-------	---

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 <単元・題材の評価規準>	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	1部 地図や地理情報システムでとらえる現代世界 1章 地図や地理情報システムと現代世界 1節 地球儀と地図	3	① 知識・技能 地球上における位置のとらえ方について理解している。	定期考査	・私たちは地球上の位置をどのようにしてとらえているのだろうか。位置の違いによってもたらされる影響に着目する。 ・世界各地の時差はなぜ生じるのだろうか。時差が生活に与える影響に着目する。 ・球体の地球儀と平面の地図では、世界をとらえる際にどのような違いがあるのだろうか。それぞれの利用法に着目する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 時差が人々の生活にどのような影響を与えているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 球体の地球儀と平面の地図それぞれの適切な利用のしかたについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	授業態度			
4月	2節 地図と地理情報システム	2	① 知識・技能 さまざまな図法によって描かれた地図の特徴や、目的に応じて地図が使い分けられていることについて理解している。	定期考査	・地図は目的に応じてどのように使い分けられるのだろうか。表現方法や縮尺(スケール)、主題(テーマ)に着目する。 ・地理情報システム(GIS)は、私たちの生活のなかでどのように役立てられているのだろうか。GISの特徴に着目する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 地理情報システムの特徴に着目しながら、地理情報システムが生活のなかでどのように役立てられているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 地理情報システムの現在の利用方法や、これからの活用方法について、主体的に追究し、課題を見いだしている。	授業態度			
5月	2章 結びつきを深める現代世界 1節 現代世界の国家と領域	2	① 知識・技能 さまざまな国境によって国家の領域が定められていることについて理解している。	定期考査	・世界には、どのような国境があるのだろうか。国境の引かれ方や国境によって定まる領域に着目する。 ・地図に見られるような日本の位置や領域には、どのような特徴があるのだろうか。排他的経済水域や領土をめぐる問題に着目しながらみていこう。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 排他的経済水域や領土をめぐる問題に着目しながら、日本の位置や領域にどのような特徴があるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 世界や日本の国家の領域をめぐるさまざまな問題について、主体的に追究し、課題を見いだしている。	授業態度			
5月	2節 地図から見る国内や国家間の結びつき	4	① 知識・技能 国家間の結びつきの変化をとらえるのに地図が有用であることを理解している。	定期考査	・地図を通して、国家間の結びつきの変化を、どのようにとらえることができるだろうか。経済圏に着目する。 ・地図を通して、世界の貿易の特徴はどのようにとらえることができるだろうか。先進国と発展途上国の関係や、各国間の協定に着目する。 ・地図を通して、交通網・通信網の発達による世界の結びつきの変化はどのようにとらえられるだろうか。地域差に着目する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
			② 思考・判断・表現 先進国と発展途上国の関係や、各国間の協定に着目しながら、世界の貿易にはどのような特徴があるのかについて、地図を用いて多面的・多角的に考察し、表現している。	レポート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 地図から読み取れる人々の移動の特徴について、主体的に追究し、課題を見いだしている。	授業態度			

5月～ 6月	2部 国際理解と国際協力 1章 生活文化の多様性と国際理解 1節 世界の地形と人々の生活	6	① 知識・技能 ・世界の大山脈や大平原が、なぜそこに、どのようにできてきたのかについて理解している。 ・氷河地形、カルスト地形、乾燥地形が、なぜそこに、どのようにしてできたのかについて理解している。 ② 思考・判断・表現 河川がつくるさまざまな地形の形成過程や、それらの地形が人々の生活にどのような影響を与えているのかについて多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 氷河地形、カルスト地形、乾燥地形の景観としての特徴を見いだしたうえで、それらの地形が観光資源として人々をひきつけている要因について主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査 レポート 授業態度	・自然が形成した地形は、人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。自然の恵みに着目する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出
6月～ 7月	2節 世界の気候と人々の生活	6	① 知識・技能 世界の気候の広がりや、気候と人々の生活が深く関わり合っていることについて理解している ② 思考・判断・表現 衣食住に着目しながら、世界の気候がどのような広がり方をしているのかや、気候と人々の生活がどのように関わり合っているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 気候と深く関わり合いながら人々が生活を築いてきたことについて、衣食住を手がかりに主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査 レポート 授業態度	・世界の気候は、どのように広がり、人々の生活とどのように関わり合っているのだろうか。衣食住に着目する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出
7月	3節 世界の産業と人々の生活	2	① 知識・技能 農業の国際化や技術の発達、世界の人々の生活に影響を与えてきたことについて理解している。 ・工業の発展が世界の人々の生活を変えてきたことについて理解している。 ② 思考・判断・表現 自らの食生活をイメージしながら、農業の国際化や技術の発達、世界の人々の生活にどのような影響を与えてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 工業の発展と深く関わりながら、世界の人々の生活が変化してきたことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査 レポート 授業態度	・農業の国際化や技術の発達は、世界の人々の生活にどのような影響を与えてきたのだろうか。私たちの食生活に着目する。 ・工業の発展は世界の人々の生活をどのように変化させてきたのだろうか。発展の経緯や移り変わりに着目する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出
7月	4節 世界の宗教・民族・言語と人々の生活	2	① 知識・技能 宗教や言語といった文化が、民族というまとまりの形成や、人々の生活に影響を与えてきたことについて理解している。 ② 思考・判断・表現 世界の民族に着目しながら、各民族がどのような文化や生活様式をもっているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 宗教や言語といった文化が各民族を特徴づけ、人々の生活を形づくってきたことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査 レポート 授業態度	・宗教や言語などの文化は、人々の生活にどのような影響を与えているのだろうか。それぞれの文化を形成する民族に着目する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出
7月	5節 多様な生活文化と地理的環境	2	① 知識・技能 日本と世界各地の生活文化の共通点・相違点を生み出す要因に、地理的環境があることについて理解している。 ② 思考・判断・表現 衣食住などに着目しながら、日本と世界各地の生活文化にどのような共通点・相違点があるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 日本と世界各地の生活文化の共通点・相違点を、地理的環境を踏まえながら主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査 レポート 授業態度	・さまざまな地理的環境のなかで育まれてきた日本と世界各地の生活文化には、どのような共通点・相違点があるのか考察する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出
9月	事例1 産業① 経済発展による生活文化の変化 -東アジア-	6	① 知識・技能 多民族国家として中国をとらえたうえで、経済発展が人々の生活に影響を与えてきたことについて理解している。 ② 思考・判断・表現 自然環境の差異や農業に着目しながら、経済発展が中国の食生活をどのように変化させたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 都市化の進展度合いの地域的差異や、そのことによって生じる経済格差の問題と対策について、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査 レポート 授業態度	・急速な中国の経済発展は、人々の生活や文化にどのような変化をもたらしたのだろうか考察する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出

9月～10月	事例2 結びつき① 他地域との結びつきが生活文化に与えてきた影響 -東南アジア-	6	① 知識・技能 季節風が自然環境に与える影響や、他地域との結びつきを生み、人々の生活に影響を与えてきたことについて理解している。 ② 思考・判断・表現 どのような歴史的経緯から宗教や民族の多様性がもたらされたのかや、現代の人々の生活に対してどのような政策が取られているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 農業の発展や農産物の輸出の背景として、自然環境や歴史、世界との結びつきの変化があったことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査 レポート 授業態度	交易の歴史や他地域との結びつきは、人々の生活や文化にどのような影響を与えてきたのだろうか考察する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出
10月～11月	事例3 宗教・歴史① ヒンドゥー教と生活文化の関わり -インド	4	① 知識・技能 宗教が人々の生活に影響を与えてきたことについて理解している。 ② 思考・判断・表現 食べ物や飲み物に着目しながら、宗教と人々の食文化や農業との関わりについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 新たな産業の成長と経済発展が、宗教と結びついて形成されてきた人々の生活に変化をもたらしていることについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査 レポート 授業態度	・インドで生まれた宗教は、長い歴史を通じて人々の生活や文化とどのように関わってきたのだろうか、考察する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出
11月	2章 地球的課題と国際協力 1節 人口問題 2節 食料問題	2	① 知識・技能 世界のどこで、どのような人口問題が生じているのかについて理解している。 ② 思考・判断・表現 各地で異なる原因に着目しながら、食料問題がどこで、どのような形となって生じているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 各地で異なる現れ方をして人口問題の要因を踏まえううえで、求められる取り組みについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査 レポート 授業態度	・世界にはどのような人口問題があるのだろうか。人口増加と人口減少、どちらの現象にも着目する。 ・世界や日本にはどのような食料問題があるのだろうか。その原因と、解決のための取り組みに着目する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出
11月	3節 都市・居住問題 4節 感染症・衛生問題	2	① 知識・技能 世界でどのような都市問題が生じているのかについて理解している。 ② 思考・判断・表現 グローバル化や衛生環境に着目しながら、感染症がどこで、どのように生じ、どのように解決が図られてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 都市・居住問題の解決に必要な取り組みについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査 レポート 授業態度	・世界にはどのような都市・居住問題があり、どのような取り組みが行われているのか考察する。 ・広がりを増す感染症・衛生問題とどのように向き合う必要があるか考察する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出
12月	5節 資源・エネルギー問題 6節 地球環境問題	4	① 知識・技能 資源・エネルギーの生産地と消費地は、それぞれ地域的に偏在していることについて理解している。 ② 思考・判断・表現 海洋汚染や熱帯林破壊に着目しながら、地球環境問題がどこで、どのように生じており、どのような影響が生じているのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 持続可能な開発を実現するために必要なことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査 レポート 授業態度	・私たちは生活に欠かせない資源・エネルギーをどのように生み出し、利用していくべきか考察する。 ・地球環境問題を解決するためにはどのような取り組みが求められるか考察する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出
1月	3部 持続可能な地域づくりと私たち 1章 自然環境と防災 1節 日本の自然環境 2節 地震・津波や火山活動による災害と防災	6	① 知識・技能 ・世界と比較した日本の自然環境の特徴について理解している。 ・地震が発生するメカニズムや、生じる場所と揺れの大きさの関係について理解している。 ② 思考・判断・表現 ・火山がもたらす被害と恩恵の両側面に着目しながら、火山と深く関わりながら人々がどのような生活を築いてきたのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・人々の生活のなかにみられる地震・津波や火山活動への取り組みや対策について、主体的に追究し、課題を見いだしている。	定期考査 レポート 授業態度	・日本の自然環境は、世界と比較するとどのような特徴があるのだろうか。 ・地震・津波や火山活動による災害を防ぐためには、どのような取り組みが必要だろうか。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出

2月	3節 気象災害と防災 4節 自然災害への備え	2	<p>① 知識・技能 ・場所によってどのような気象災害が生じるのかについて理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・新興住宅地や交通機関への影響に着目しながら、集中豪雨や大雪への備えとしてどのような対策が必要なのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・自然災害による被害を最小限にするために、事前にできる備えについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。</p>	<p>定期考査</p> <p>レポート</p> <p>授業態度</p>	<p>・気象災害を防ぐために、どのような取り組みが必要か考察する。 ・自然災害に対して、私たちはどのように備えるべきか考察する。</p>	<p>・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出</p>
3月	2章 生活圏の調査と地域の展望	5	<p>① 知識・技能 ・生活圏の調査を行ううえで、「問い」を立てることや事前調査が必要なことについて理解し、技能として身につけている。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・事前調査の結果からどのような仮説や調査項目が立てられるのかについて、多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・現地調査の結果を分析・整理したり、他地域の事例と比較したりしながら仮説の検証を行うことについて、主体的に追究し、課題を見いだしている。</p>	<p>定期考査</p> <p>レポート</p> <p>授業態度</p>	<p>・私たちの生活圏にはどのような地理的課題があるのだろうか。「問い」を探し、事前調査を行うことで、調査テーマを絞り込む。 ・事前調査の結果から、どのような仮説を立てたらよいだろうか。仮説の検証に向けた調査項目も考えながら準備をし、現地調査に行ってみよう。 ・現地調査の結果から分かったことは何だろうか。他地域の似た事例と比較しながら、調査結果を分析・整理し、仮説の検証をしてみよう。</p>	<p>・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出</p>
指導時間数の計		70				

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者に必要な公民としての資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 現代世界の地域的特色と日本及び世界の歴史の展開に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。 (2) 地理や歴史に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関連を、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。 (3) 地理や歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の国土や歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
歴史総合	2	全日制・普通科・第1学年	歴史総合(実教出版社)

科目の目標	○近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界とそのなかの日本を広く相互的な視野から捉え、現代的な諸課題の形成に関わる近現代の歴史を理解するとともに、諸資料から歴史に関するさまざまな情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身につけるようにする。(知識及び技能) ○近現代の歴史の変化に関わる事象の意味や意義、特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。(思考力、判断力、表現力等) ○近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

時期	単元・題材名	指導時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	歴史の扉 近代化への問い	4	① 知識・技能 私たちの生活や身近な地域などに見られる諸事象を基に、それらが日本や日本周辺の地域及び世界の歴史とつながっていることを理解している。 ② 思考・判断・表現 近代化、国際秩序の変化や大衆化、グローバル化などの歴史の変化と、日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 中学校社会科における学習の成果を生かし、必修科目である「歴史総合」を学ぶ意義や目的、歴史的な考察の方法やその特質について、主体的に理解を深めようとしている。	定期テスト 定期テスト(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	○高校の歴史学習の動機付けと以後の学習に必要な歴史学習の基本的な技能や学び方を身につける。 ○中学までの学習及び「歴史の扉」の学習をふまえ、諸資料を活用して情報を読みとったりまとめたりする技能を取得し、人々の生活や社会のあり方が近代化にともない変化したことについて考察するための問いを表現する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
4月	第1編 近代化と私たち 第1章 1. 江戸時代の日本と東アジア秩序の変動 2. 江戸時代の生産・流通と諸改革 3. 幕政の改革と東アジア世界	5	① 知識・技能 17世紀を含めた18世紀とその前後の日本やアジアにおける生産と流通、江戸幕府の4つの口や周辺地域との貿易などを基に、18世紀の日本からみた東アジアの政治・経済と社会を理解している。 ② 思考・判断・表現 17世紀から始まり18世紀にかけての日本が4つの口を通して周辺地域との関係に着目して、主題を設定し、周辺地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀とその前後の日本における経済活動の特徴、清などのアジア諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 17世紀を含めた18世紀とその前後の日本やアジアにおける生産と流通、江戸幕府の4つの口や周辺地域との貿易などについて、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	定期テスト 定期テスト(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	○17世紀を含めた18世紀とその前後の日本やアジアにおける生産と流通、江戸幕府の4つの口や周辺地域との貿易などを基に、18世紀の日本からみた東アジアの政治・経済と社会を理解する。 ○17世紀から始まり18世紀から19世紀にかけての日本が4つの口を通して周辺地域との関係に着目して、主題を設定し、周辺地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀とその前後の日本における経済活動の特徴、清などのアジア諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	
4~5月	第2章 4. イギリス産業革命とアメリカ独立戦争 5. フランス革命とウィーン体制 6. アメリカ合衆国の発展とラテンアメリカの独立 7. オスマン帝国の衰退とロシア 8. アヘン戦争の衝撃と日本の開国 9. 江戸幕府の滅亡	8	① 知識・技能 18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸、オスマン帝国における政治、各地域間や清や日本などアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、18世紀とその前後の世界の経済と社会を理解している。 ② 思考・判断・表現 18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸、オスマン帝国でのできごとや影響などに着目して、主題を設定し、世界各地の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸、東アジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸とアジアとの歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。	定期テスト 定期テスト(論述問題など) レポート課題 討論・発表 学習の振り返り レポート課題 討論・発表 学習の振り返り	○18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸、オスマン帝国における生産と流通、アヘン戦争やペリー来航をはじめアジアと欧米諸国の関係などを基に、18世紀とその前後の世界の政治と社会を理解する。 ○18世紀とその前後のヨーロッパやアメリカ大陸、オスマン帝国の政治に影響などに着目して、主題を設定し、ヨーロッパ諸国とその他の地域の動向を比較したり、アジアとの関係を相互に関連付けたりするなどして、18世紀とその前後の世界全体の経済活動の特徴、ヨーロッパ各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係、江戸幕府が崩壊していく関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。	・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出	

6月	<p>第3章 10. イギリス・フランスの繁栄とイタリア・ドイツ統一 11. 明治政府の諸改革 12. 日本のアジア外交と国境問題 13. 自由民権運動と大日本帝国憲法</p>	6	<p>① 知識・技能 19世紀後半のヨーロッパや日本における政治、ヨーロッパ各地域間や日本と欧米諸国の関係などを基に、19世紀後半のヨーロッパと日本の政治と社会を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 19世紀後半の欧米諸国が日本に与えた影響などに着目して、主題を設定し、ヨーロッパ諸国とその他の地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、19世紀後半のヨーロッパにおける政治活動の特徴、ヨーロッパ各地域間の関係、日本と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 19世紀後半のヨーロッパの動きと日本との関連に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>	<p>定期テスト</p> <p>定期テスト（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p> <p>レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p>	<p>○19世紀後半のヨーロッパの動きと日本の明治政府の政策、日本と欧米諸国の外交関係などを基に、19世紀後半のヨーロッパと日本との経済と社会を理解する。</p> <p>○19世紀後半の欧米諸国の動向が日本に与えた影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、19世紀後半の日本における経済活動の特徴、日本と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p>	<p>・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出</p>
6月～7月	<p>第4章 14. 帝国主義の時代へ 15. 朝鮮をめぐる国際関係と日清戦争 17. 日露戦争と東アジアの変動 18. 日本の産業革命 近代化と現代的な諸課題</p>	7	<p>① 知識・技能 19世紀から20世紀初頭にかけてのアジアや日本における生産と流通、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の貿易などを基に、19世紀から20世紀初頭のアジアの経済と社会を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 19世紀から20世紀初頭にかけての欧米諸国の帝国主義が世界に与えた影響などに着目して、主題を設定し、ヨーロッパ諸国とその他の地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、19世紀から20世紀初頭の日本における政治の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 帝国主義や日本のアジア進出に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>	<p>定期テスト</p> <p>定期テスト（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p> <p>レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p>	<p>○19世紀から20世紀初頭にかけての欧米諸国の帝国主義の動き、日本と東アジアの関係、アジア各地域間やアジア諸国と欧米諸国の進出などを基に、19世紀から20世紀初頭にかけてのアジアの政治と社会を理解する。</p> <p>○19世紀から20世紀初頭にかけてのヨーロッパアジア諸国の経済が欧米諸国に与えた影響などに着目して、主題を設定し、アジア諸国とその他の地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、19世紀から20世紀初頭のアジア諸国における経済活動の特徴、アジア各地域間の関係、アジア諸国と欧米諸国との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p>	<p>・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出</p>
9～10月	<p>第2編 国際秩序の変化や大衆化と私たち 第5章 19. 第一次世界大戦 20. ロシア革命とソ連の成立 21. 米騒動と大正デモクラシー 22. ヴェルサイユ体制とワシントン体制 23. アジアの民族運動 24. 第一次世界大戦後の欧米諸国 25. ひろがる社会運動と普通選挙の実現</p>	10	<p>① 知識・技能 第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 20世紀初頭から戦間期にかけての日本を中心に世界的な動きと関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>	<p>定期テスト</p> <p>定期テスト（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p> <p>レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p>	<p>○第一次世界大戦の展開、日本やアジアの経済成長、ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭、ナショナリズムの動向と国際連盟の成立などを基に、総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解している。大衆の政治参加と女性の地位向上、大正デモクラシーと政党政治、大量消費社会と大衆文化、教育の普及とマスメディアの発達などを基に、大衆社会の形成と社会運動の広がりを理解する。</p> <p>○第一次世界大戦の推移と第一次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、日本の参戦の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大戦の性格と惨禍、日本とアジア及び太平洋地域の関係や国際協調体制の特徴などを多面的・多角的に考察し、表現している。第一次世界大戦前後の社会の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、関連付けたりするなどして、第一次世界大戦後の社会の変容と社会運動との関連などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p>	<p>・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出</p>

11月～12月	<p>第6章 26. 世界恐慌と各国の対応 27. ファシズムの時代 28. 満洲事変と軍部の対立 29. 日中戦争と戦時体制 30. 第二次世界大戦の勃発 31. 第二次世界大戦の終結 32. 国際連合の成立と冷戦 33. 日本占領と日本国憲法 34. 朝鮮戦争と日本 国際秩序の変化や大衆化と現代的な諸課題</p>	12	<p>② 思考・判断・表現 経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 世界恐慌やナチス・ドイツ誕生の頃から第二次世界大戦の後の日本の独立回復までの日本と世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>	<p>定期テスト（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p> <p>レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p>	<p>○世界恐慌、ファシズムの伸張、日本の対外政策などを基に、国際協調体制の動揺を理解している。第二次世界大戦の展開、国際連合と国際経済体制、冷戦の始まりとアジア諸国の動向、戦後改革と日本国憲法の制定、平和条約と日本の独立の回復などを基に、第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。 ○経済危機の背景と影響、国際秩序や政治体制の変化などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、各国の世界恐慌への対応の特徴、国際協調体制の動揺の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。第二次世界大戦の推移と第二次世界大戦が大戦後の世界に与えた影響、第二次世界大戦後の国際秩序の形成が社会に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、第二次世界大戦の性格と惨禍、第二次世界大戦下の社会状況や人々の生活、日本に対する占領政策と国際情勢との関係などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p>	<p>・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出</p>
1月	<p>第3編 グローバル化と私たち 第7章 35. 植民地の独立 36. ミソ両陣営の動揺 37. 日本の国際社会復帰と高度経済成長</p>	6	<p>① 知識・技能 脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解している。西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済とその波及、日本の高度経済成長などを基に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 1950年代の冷戦期から1970年代の石油危機で日本の高度経済成長期がおわるころの日本を中心に世界的な動きと関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>	<p>定期テスト</p> <p>定期テスト（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p> <p>レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p>	<p>○脱植民地化とアジア・アフリカ諸国、冷戦下の地域紛争、先進国の政治の動向、軍備拡張や核兵器の管理などを基に、国際政治の変容を理解している。西ヨーロッパや東南アジアの地域連携、計画経済とその波及、日本の高度経済成長などを基に、世界経済の拡大と経済成長下の日本の社会を理解する。 ○地域紛争の背景や影響、冷戦が各国の政治に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、地域紛争と冷戦の関係、第三世界の国々の経済政策の特徴、欧米やソヴィエト連邦の政策転換の要因などを多面的・多角的に考察し、表現している。冷戦が各国経済に及ぼした影響、地域連携の背景と影響、日本の高度経済成長の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦下の世界経済や地域連携の特徴、経済成長による生活や社会の変容などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p>	<p>・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出</p>
2月	<p>第8章 38. 石油危機と世界経済 39. 緊張緩和から冷戦の終息へ 40. 日本の経済大国化</p>	6	<p>① 知識・技能 石油危機、アジア諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解している。冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 1970年代に入り石油危機などが起きたころから21世紀の現代までの日本と世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>	<p>定期テスト</p> <p>定期テスト（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p> <p>レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p>	<p>○石油危機、アジアの諸地域の経済発展、市場開放と経済の自由化、情報通信技術の発展などを基に、市場経済の変容と課題を理解している。冷戦の終結、民主化の進展、地域統合の拡大と変容、地域紛争の拡散とそれへの対応などを基に、冷戦終結後の国際政治の変容と課題を理解する。 ○アジアの諸地域の経済発展の背景、経済の自由化や技術革新の影響、資源・エネルギーと地球環境問題が世界経済に及ぼした影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、市場経済のグローバル化の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現している。冷戦の変容と終結の背景、民主化や地域統合の背景と影響、地域紛争の拡散の背景と影響などに着目して、主題を設定し、日本とその他の国や地域の動向を比較したり、相互に関連付けたりするなどして、冷戦終結後の国際政治の特徴と日本の役割などを多面的・多角的に考察し、表現する。</p>	<p>・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出</p>

3月	第9章 41. 地域紛争と対立 42. 国際秩序の変容 現代的な諸課題の形成と展望	6	<p>① 知識・技能 歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 21世紀に入って日本と世界の歴史の変化に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に追求、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される日本国民としての自覚、我が国の歴史に対する愛情、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。</p>	<p>定期テスト</p> <p>定期テスト（論述問題など） レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p> <p>レポート課題 討論・発表 学習の振り返り</p>	<p>○歴史的経緯を踏まえて、現代的な諸課題を理解する。 ○事象の背景や原因、結果や影響などに着目して、日本とその他の国や地域の動向を比較し相互に関連付けたり、現代的な諸課題を展望したりするなどして、主題について多面的・多角的に考察、構想し、表現する。</p>	<p>・グループ活動 ・プレゼン、発表 ・レポート提出</p>
指導時間数の計		70				

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自励心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。 (3) 数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
数学 I	3	全日制・普通科・1学年	新編 数学 I (数研出版)

科目の目標	数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 数と式、図形と計量、二次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。 (2) 命題の条件や結論に着目し、数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力、図形の構成要素間の関係に着目し、図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力、関数関係に着目し、事象を的確に表現してその特徴を表、式、グラフを相互に関連付けて考察する力、社会の事象などから設定した問題について、データの散らばりや変量間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析を行い、問題を解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。 (3) 数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
-------	---

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 <単元・題材の評価規準>	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	第1章 数と式 1. 多項式の加法と減法 2. 多項式の乗法	7	① 知識・技能 ・単項式や多項式、同類項、次数など式に関する用語を理解している。 ・多項式について、同類項をまとめたり、ある文字に着目して降べきの順に整理したりすることができる。 ・多項式の加法、減法の計算ができる。 ・指数法則を理解し、多項式の乗法の計算ができる。 ・展開の公式を利用できる。 ・式の形の特徴に着目して変形し、展開の公式が適用できるようにすることができる。 ② 思考・判断・表現 ・式の展開は分配法則を用いると必ずできることを理解している。 ・式を1つの文字におき換えることによって、式の計算を簡略化することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・単項式、多項式とその整理の仕方に関心を持ち、考察しようとする。 ・多項式の乗法には、数の場合と同様に分配法則が使えることに関心を持ち、考察しようとする。	小テスト 定期テスト  定期テスト ノート  ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
4月～ 5月	3. 因数分解	6	① 知識・技能 ・因数分解の公式を利用できる。 ・因数分解を行うのに、文字のおき換えを利用することができる。 ② 思考・判断・表現 ・複雑な式についても、項を組み合わせる、降べきの順に整理するなどして見通しをよくすることで、因数分解をすることができる。 ・式の形の特徴に着目して変形し、因数分解の公式が適用できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・式の変形、整理などの工夫において、よりよい方法を考察しようとする。 ・展開と因数分解の関係に着目し、因数分解の検算に展開を利用しようとする態度がある。	小テスト 定期テスト  定期テスト ノート  ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
5月	4. 実数	2	① 知識・技能 ・分数を循環小数で表すことができる。 ・有理数が整数、有限小数、循環小数のいずれかで表される理由を理解している。 ・有理数、無理数、実数の定義を理解し、それぞれの範囲での四則計算の可能性について理解している。 ・絶対値の意味と記号表示を理解している。 ② 思考・判断・表現 ・四則計算を可能にするために数が拡張されてきたことを理解している。 ・実数を数直線上の点の座標として捉えられる。また、実数の大小関係と数直線を関係づけて考察することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・今まで学習してきた数の体系について整理し、考察しようとする。	小テスト 定期テスト  定期テスト ノート  ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動	
5月	5. 根号を含む式の計算	3	① 知識・技能 ・平方根の意味、性質を理解している。 ・根号を含む式の加法、減法、乗法の計算ができる。また、分母の有理化ができる。 ② 思考・判断・表現 ・根号を含む式の計算について、一般化して考えられる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・根号を含む式の計算公式を証明しようとする。	小テスト 定期テスト  定期テスト ノート  ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	

6月	6. 不等式の性質 7. 1次不等式	8	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>不等号の意味を理解し、数量の大小関係を式で表すことができる。</li> <li>不等式の性質を理解している。</li> <li>不等式における解の意味を理解し、1次不等式を解くことができる。</li> <li>連立不等式の意味を理解し、連立1次不等式を解くことができる。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>不等式を解くことができる。</li> <li>身近な問題を1次不等式の問題に帰着させ、問題を解決することができる。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>不等式の性質について、等式における性質と比較して、考察しようとする。</li> <li>不等式における解の意味について、等式における解と比較して、考察しようとする。</li> </ul>	<p>小テスト 定期テスト</p> <p>定期テスト ノート</p> <p>ノート 観察 発表 学習の振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>例題</li> <li>問題演習</li> <li>グループ活動</li> <li>発表</li> </ul>	<p>グループ活動 発表</p>	
6月～ 7月	8. 絶対値を含む方程式・不等式	2	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>絶対値の意味から、絶対値を含む方程式、不等式を解くことができる。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>絶対値記号を含むやや複雑な式についても、適切に絶対値記号をはずす処理ができる。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>絶対値記号を含むやや複雑な方程式や不等式を解くことに取り組む意欲がある。</li> </ul>	<p>小テスト 定期テスト</p> <p>定期テスト ノート</p> <p>ノート 観察 発表 学習の振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>例題</li> <li>問題演習</li> <li>グループ活動</li> <li>発表</li> </ul>	<p>グループ活動 発表</p>	
6月～ 7月	第2章 集合と命題 1. 集合	3	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>集合とその表し方を理解している。また、2つの集合の関係を、記号を用いて表すことができる。</li> <li>空集合、共通部分、和集合、補集合について理解している。</li> <li>ド・モルガンの法則を理解している。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>条件を満たすものを集合の要素としてとらえることができる。</li> <li>ベン図などを用いて、集合を視覚的に表現して考察することができる。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>集合について、それぞれの特徴や関係に合った表現方法を考察しようとする。</li> <li>3つの集合についても、和集合、共通部分について考察しようとする。</li> </ul>	<p>小テスト 定期テスト</p> <p>定期テスト ノート</p> <p>ノート 観察 発表 学習の振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>例題</li> <li>問題演習</li> <li>グループ活動</li> <li>発表</li> </ul>	<p>グループ活動 発表</p>	
7月	2. 命題と条件	3	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>命題の真偽、反例の意味を理解し、集合の包含関係や反例を調べることで、命題の真偽を決定することができる。</li> <li>必要条件、十分条件、必要十分条件、同値の定義を理解している。</li> <li>条件の否定、ド・モルガンの法則を理解し、複雑な条件の否定が求められる。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>命題の真偽を、集合の包含関係に結び付けてとらえることによって考察することができる。</li> <li>命題が偽であることを示すには、反例を1つあげればよいことが理解できている。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>命題と条件の違いや、命題と集合との関係について、積極的に理解しようとする。</li> <li>条件を満たすものの集合の包含関係が、命題の真偽に関連していることに着目し、命題について調べようとする態度がある。</li> </ul>	<p>小テスト 定期テスト</p> <p>定期テスト ノート</p> <p>ノート 観察 発表 学習の振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>例題</li> <li>問題演習</li> <li>グループ活動</li> <li>発表</li> </ul>	<p>グループ活動 発表</p>	
7月	3. 命題とその逆・対偶・裏	2	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>命題の逆・対偶・裏の定義と意味を理解し、それらの真偽を調べることができる。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>命題について真偽を調べる上で、逆・裏・対偶を用いることの有用性を理解できている。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>命題とその対偶の真偽の関係について考察しようとする。</li> </ul>	<p>小テスト 定期テスト</p> <p>定期テスト ノート</p> <p>ノート 観察 発表 学習の振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>例題</li> <li>問題演習</li> <li>グループ活動</li> <li>発表</li> </ul>	<p>グループ活動 発表</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>国語科「かつ」、「または」などの表現について</li> </ul>
7月	4. 命題と証明	2	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>対偶による証明法や背理法のしくみを理解している。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>命題の条件や結論に着目し、命題に応じて対偶の利用や背理法の利用を適切に判断することで、命題を証明することができる。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>直接証明法では難しい命題も、対偶を用いた証明法や背理法を用いると鮮やかに証明できることに興味・関心をもち、実際に証明しようとする。</li> </ul>	<p>小テスト 定期テスト</p> <p>定期テスト ノート</p> <p>ノート 観察 発表 学習の振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>例題</li> <li>問題演習</li> <li>グループ活動</li> <li>発表</li> </ul>	<p>グループ活動 発表 レポート</p>	

9月	1. 関数とグラフ	2	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・<math>y=f(x)</math>の表記を理解し、用いることができる。</li> <li>・与えられた条件から1次関数を決定することができる。</li> <li>・定義域に制限がある1次関数のグラフがかけ、値域が求められる。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2つの変量の関係を関数式で表現できる。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活に見られる関数の具体例を見つけて考察しようとする。</li> <li>・座標平面上の点と象限について、理解を深めようとする。</li> </ul>	<p>小テスト 定期テスト</p> <p>定期テスト ノート</p> <p>ノート 観察 発表 学習の振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例題</li> <li>・問題演習</li> <li>・グループ活動</li> <li>・発表</li> </ul>	グループ活動 発表	
9月	2. 2次関数のグラフ	10	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次関数のグラフの軸と頂点を調べ、グラフをかくことができる。</li> <li>・平方完成をすることができる。</li> <li>・放物線の平行移動や対称移動の一般公式を活用して、移動後の放物線の方程式を求めることができる。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次関数の特徴について、表、式、グラフを相互に関連付けて多面的に考察することができる。</li> <li>・放物線の平行移動を、頂点の移動に着目して、考察することができる。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・放物線のもつ性質に興味・関心を示し、自ら調べようとする。</li> <li>・一般形で表された2次関数について、頂点、軸の式を考察しようとする。</li> <li>・放物線の平行移動や対称移動の一般公式を考察しようとする。</li> </ul>	<p>小テスト 定期テスト</p> <p>定期テスト ノート</p> <p>ノート 観察 発表 学習の振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例題</li> <li>・問題演習</li> <li>・グループ活動</li> <li>・発表</li> </ul>	グループ活動 発表 プレゼンテーション	・理科（物理） 放物線について
10月	3. 2次関数の最大・最小	6	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次関数が最大値または最小値をもつことを理解している。</li> <li>・2次関数を標準形に式変形して、最大値、最小値を求めることができる。</li> <li>・2次関数の定義域に制限がある場合に、最大値、最小値を求めることができる。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次関数の値の変化をグラフから考察することができる。</li> <li>・具体的な事象の最大・最小の問題を、2次関数を用いて表現し、処理することができる。</li> <li>・定義域が変化するときや、グラフが動くときの最大値や最小値について、考察することができる。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活における具体的な事象の考察に、2次関数の最大・最小の考えを活用しようとする。</li> </ul>	<p>小テスト 定期テスト</p> <p>定期テスト ノート</p> <p>ノート 観察 発表 学習の振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例題</li> <li>・問題演習</li> <li>・グループ活動</li> <li>・発表</li> </ul>	グループ活動 発表	
10月	4. 2次関数の決定	3	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次関数の決定において、与えられた条件を関数の式に表現し、2次関数を決定することができる。</li> <li>・連立3元1次方程式の解き方を理解している。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次関数の決定において、条件を処理するのに適した式の形を判断することができる。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次関数の決定条件に興味、関心をもち、考察しようとする。</li> </ul>	<p>小テスト 定期テスト</p> <p>定期テスト ノート</p> <p>ノート 観察 発表 学習の振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例題</li> <li>・問題演習</li> <li>・グループ活動</li> <li>・発表</li> </ul>	グループ活動 発表	
10月～ 11月	5. 2次方程式	4	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次方程式の解き方として、因数分解、解の公式を理解している。</li> <li>・2次方程式において、判別式の符号と実数解の個数の関係を理解している。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次方程式が実数解や重解をもつための条件を式で示すことができる。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次方程式がどんな場合でも解けるように、解の公式を得て、それを積極的に利用しようとする。</li> <li>・1次の係数が2bである2次方程式の解の公式を積極的に利用しようとする。</li> </ul>	<p>小テスト 定期テスト</p> <p>定期テスト ノート</p> <p>ノート 観察 発表 学習の振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例題</li> <li>・問題演習</li> <li>・グループ活動</li> <li>・発表</li> </ul>	グループ活動 発表	
11月	6. 2次関数のグラフとx軸の位置関係	6	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次関数のグラフとx軸の共有点の座標が求められる。</li> <li>・2次関数のグラフとx軸の共有点の個数を求めることができる。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次関数のグラフとx軸の共有点の個数や位置関係を、判別式の符号から考察することができる。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2次関数のグラフとx軸の位置関係を調べ、その意味を探ろうとする。</li> </ul>	<p>小テスト 定期テスト</p> <p>定期テスト ノート</p> <p>ノート 観察 発表 学習の振り返り</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例題</li> <li>・問題演習</li> <li>・グループ活動</li> <li>・発表</li> </ul>	グループ活動 発表	

11月～ 12月	7. 2次不等式	8	① 知識・技能 ・2次不等式を解くことができる。 ・2次不等式を利用する応用問題を解くことができる。 ・2次の連立不等式を解くことができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表 プレゼンテーション	・商業科 価格設定と利益について
			② 思考・判断・表現 ・2次関数の値の符号と2次不等式の解を相互に関連させて考察することができる。 ・2次式が一定の符号をとるための条件を、グラフと関連させて考察することができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・1次関数と1次不等式の関係から、2次不等式の場合を考えようとする。 ・2次不等式を解くときに、図を積極的に利用する。 ・身近な問題を2次不等式で解決しようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
12月	第4章 図形と計量 1. 三角比	4	① 知識・技能 ・直角三角形において、正弦、余弦、正接が求められる。 ・三角比の定義から、辺の長さを求める関係式を考察することができる。 ・直角三角形の辺の長さを三角比で表す式を理解し、測量などの応用問題に利用できる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・三角比の表から $\sin\theta$ 、 $\cos\theta$ 、 $\tan\theta$ の値を読み取ることができる。 ・具体的な事象を三角比の問題としてとらえることができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・日常の事象や社会の事象などに三角比を活用しようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
12月～ 1月	2. 三角比の相互関係	5	① 知識・技能 ・三角比の相互関係を利用して、1つの値から残りの値が求められる。 ・ $\sin(90^\circ - \theta) = \cos\theta$ などの公式が利用できる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・三平方の定理をもとに三角比の相互関係を考察することができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・三角比の相互関係を調べようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
1月	3. 三角比の拡張	4	① 知識・技能 ・直角三角形の斜辺の長さを適当に変えて、三角比を考察することができる。 ・ $\sin(180^\circ - \theta) = \sin\theta$ などの公式が利用できる。 ・ $0^\circ \leq \theta \leq 180^\circ$ において、三角比の値から $\theta$ を求めることができる。また、1つの三角比の値からの残りの値を求めることができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・既知である鋭角の三角比を、鈍角の場合に拡張して考察することができる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・これまでに学習している数や図形の性質に関する拡張と対比し、三角比を鋭角から鈍角まで拡張して考察しようとする。 ・三角比が与えられたときの $\theta$ を求める際に、図を積極的に利用しようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
1月～ 2月	4. 正弦定理	3	① 知識・技能 ・正弦定理における $A=B=C=D$ の形の関係式を適切に処理できる。 ・正弦定理を用いて、三角形の辺の長さや外接円の半径が求められる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・三角形の辺と角、外接円の半径の間に成り立つ関係式として、正弦定理を導くことができる。 ・正弦定理を測量に応用できる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・正弦定理の図形的意味を考察する。また、三角形の外接円、円周角と中心角の関係などから、正弦定理を導こうとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			
2月	5. 余弦定理	3	① 知識・技能 ・余弦定理を用いて、三角形の辺の長さや角の大きさが求められる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
			② 思考・判断・表現 ・三角形の辺と角の間に成り立つ関係式として、余弦定理を導くことができる。 ・余弦定理を測量に応用できる。	定期テスト ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・余弦定理の図形的意味を考察する。また、三平方の定理をもとに余弦定理を導こうとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り			

2月	6. 正弦定理と余弦定理の応用	3	<p>① 知識・技能 ・余弦定理や正弦定理を用いて、三角形の残りの辺の長さや角の大きさを求めることができる。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・正弦定理から、三角形の角の大きさについて考察することができる。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・三角形の解法について興味を示し、<math>\sin 75^\circ</math>なども求めようとする。</p>	<p>小テスト 定期テスト</p> <p>定期テスト ノート</p> <p>ノート 観察 発表 学習の振り返り</p>	<p>・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表</p>	<p>グループ活動 発表 レポート</p>
2月	7. 三角形の面積	2	<p>① 知識・技能 ・三角比を用いた三角形の面積を求める公式を理解している。 ・3辺が与えられた三角形の面積を求めることができる。 ・3辺が与えられた三角形の内接円の半径を求めることができる。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・三角比と三角形の面積の関係を考察することができる。 ・三角形の面積を、決定条件である2辺とその間の角または3辺から求めることができる。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・三角形の内接円と面積の関係を導こうとする。</p>	<p>小テスト 定期テスト</p> <p>定期テスト ノート</p> <p>ノート 観察 発表 学習の振り返り</p>	<p>・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表</p>	<p>グループ活動 発表</p>
2月	8. 空間図形への応用	3	<p>① 知識・技能 ・三角比を測量に応用できる。 ・正弦定理、余弦定理を空間図形の計量に応用できる。 ・三角比を利用して、正四面体などの体積を求めることができる。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・空間図形への応用において、適当な三角形に着目して考察することができる。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・日常の事象や社会の事象などに正弦定理や余弦定理を活用しようとする。</p>	<p>小テスト 定期テスト</p> <p>定期テスト ノート</p> <p>ノート 観察 発表 学習の振り返り</p>	<p>・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表</p>	<p>グループ活動 測量 プレゼンテーション レポート</p>
3月	第5章 データの分析 1. データの整理 2. データの代表値	3	<p>① 知識・技能 ・度数分布表、ヒストグラムについて理解している。 ・平均値や最頻値、中央値の定義や意味を理解し、それらを求めることができる。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・データの分布の仕方によっては、代表値として平均値を用いることが必ずしも適切でないことを理解している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・データを整理して全体の傾向を考察しようとする。 ・身近な統計における代表値の意味について考察しようとする。</p>	<p>小テスト 定期テスト</p> <p>定期テスト ノート</p> <p>ノート 観察 発表 学習の振り返り</p>	<p>・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表</p>	<p>グループ活動 発表</p>
3月	3. データの散らばりと四分位	4	<p>① 知識・技能 ・範囲や四分位範囲の定義やその意味を理解し、それらを求めることができる。また、データの散らばりを比較することができる。 ・箱ひげ図をかき、データの分布を比較することができる。 ・ヒストグラムと箱ひげ図の関係について理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察することができる。 ・データの中に他の値から極端にかけ離れた外れ値が含まれる場合について、外れ値の背景を探ることの利点を考察することができる。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・データの散らばりの度合いをどのように数値化するかを考察しようとする。</p>	<p>小テスト 定期テスト</p> <p>定期テスト ノート</p> <p>ノート 観察 発表 学習の振り返り</p>	<p>・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表</p>	<p>グループ活動 発表</p>
3月	4. 分散と標準偏差	3	<p>① 知識・技能 ・偏差の定義とその意味を理解している。 ・分散、標準偏差の定義とその意味を理解し、それらに関する公式を用いて、分散、標準偏差を求めることができる。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・変数の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するかを考察することができる。それらの性質を活用して平均値や分散を見通しよく計算することができる。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・変数の変換によって、平均値や標準偏差がどのように変化するか、考察しようとする。</p>	<p>小テスト 定期テスト</p> <p>定期テスト ノート</p> <p>ノート 観察 発表 学習の振り返り</p>	<p>・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表</p>	<p>グループ活動 発表</p>

3月	5. 2つの変数の間の関係	3	① 知識・技能 ・相関係数の定義とその意味を理解し、定義にしたがって求めることができる。 ・相関係数は散布図の特徴を数値化したものであること、数値化して扱うことのよさを理解している。 ・分割表の意味を理解し、問題解決に活用することができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表 レポート
			② 思考・判断・表現 ・散布図を作成し、2つの変数の間の相関を考察することができる。 ・データの相関について、散布図や相関係数を利用してデータの相関を的確にとらえて説明することができる。 ・複数のデータを、散らばりや変数間の関係などに着目し、適切な手法を選択して分析し、問題解決したり、解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりすることができる。	定期テスト ノート		
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・相関の強弱を数値化する方法を考察しようとする。 ・相関関係と因果関係の違いについて考察しようとする。	ノート 観察 発表 学習の振り返り		
3月	6. 仮説検定の考え方	3	① 知識・技能 ・仮説検定の考え方を理解し、具体的な事象に当てはめて考えることができる。	小テスト 定期テスト	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表 プレゼンテーション
			② 思考・判断・表現 ・不確実な事象の起こりやすさに着目し、実験などを通して、問題の結論について判断したり、その妥当性について批判的に考察したりすることができる。	定期テスト ノート		
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身近な事柄において、仮説検定の考え方を活用して判断しようとする態度がある。	ノート 観察 発表 学習の振り返り		
指導時間数の計		105				

学校の教育目標	<p>「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。</li> <li>2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。</li> <li>3 自励心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。</li> <li>4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。</li> <li>5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。</li> </ol>
---------	---

教科の目標	<p>○数学における基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けるようにする。(知識及び技能)</p> <p>○数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力、数学的な表現を用いて事象を簡潔・明瞭・的確に表現する力を養う。(思考力、判断力、表現力等)</p> <p>○数学のよさを認識し積極的に数学を活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。(学びに向かう力、人間性等)</p>
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
数学A	2	全日制・普通科・1年	最新 数学A(数研出版)

科目の目標	図形の性質、場合の数と確率について理解させ、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、数学と人間の活動の関係について認識を深め、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。
-------	---

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 <単元・題材の評価規準>	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	第1章 場合の数と確率 1. 集合の要素の個数	2	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 知識・技能 ・和集合や補集合について理解し、その要素の個数を求めることができる。 ・具体的な日常の事象に対して、集合を考えることで、人数などを求めることができる。</li> <li>② 思考・判断・表現 ・ベン図を利用して集合を図示することで、集合の要素の個数を考察することができる。</li> <li>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・集合を考えることで、日常的な事柄などを、集合の要素の個数として数学的に数えようとする。 ・表を作って集合の要素の個数を求める方法に興味を示し、それを利用しようとする。</li> </ol>	小テスト 定期テスト  定期テスト ノート  ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
4月 5月	2. 場合の数	4	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 知識・技能 ・樹形図を用いて、場合の数をきれなくかつ重複なく数えることができる。 ・和の法則、積の法則の利用場面を理解し、事象に応じて使い分けて場合の数を求めることができる。</li> <li>② 思考・判断・表現 ・場合の数を数える適切な方針を考察することができる。 ・自然数の正の約数の個数を数える方法を考察することができる。</li> <li>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・道順の数え方に興味を示し、樹形図、和の法則や対称性などによる場合の数の数え方に関心をもつ。 ・自然数の正の約数の個数を数えること、式の展開を利用して約数が列挙できることに興味を示す。</li> </ol>	小テスト 定期テスト  定期テスト ノート  ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
5月	3. 順列 4. 組合せ	7	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 知識・技能 ・順列の総数、階乗を記号で表し、それを活用できる。 ・組合せの総数を記号で表し、それを活用できる。また、組合せの公式を理解し、利用することができる。</li> <li>② 思考・判断・表現 ・条件が付く順列、円順列を、見方を変えたり別なものに対応させたりして処理することができる。 ・既知である順列の総数をもとにして、組合せの総数を考察することができる。</li> <li>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・順列、円順列、重複順列の違いに興味・関心をもつ。 ・順列と組合せの違いに興味・関心をもつ。 ・重複組合せについて理解し、その総数を、順列や組合せの考えを適切に用いて求めようとする。</li> </ol>	小テスト 定期テスト  定期テスト ノート  ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
6月	5. 事象と確率 6. 確率の基本性質	7	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 知識・技能 ・確率の意味、試行や事象の定義を理解している。 ・積事象、和事象の定義を理解している。 ・確率の計算に集合を活用し、複雑な事象の確率を求めることができる。</li> <li>② 思考・判断・表現 ・試行の結果を事象として捉え、事象を集合と結びつけて考察することができる。 ・集合の性質を用いて、確率の性質を一般的に考察することができる。</li> <li>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・1個のさいころを繰り返し投げ実験などを通して、統計的確率と数学的確率の違いに興味・関心をもつ。 ・加法定理などを利用して、複雑な事象の確率を意欲的に求めようとする。</li> </ol>	小テスト 定期テスト  定期テスト ノート  ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
6月 7月	7. 独立な試行と確率 8. 条件付き確率	7	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 知識・技能 ・独立な試行の確率や反復試行の確率を、公式を用いて求めることができる。 ・条件付き確率や確率の乗法定理を用いて確率の計算ができる。</li> <li>② 思考・判断・表現 ・独立な試行の確率を、具体的な例から直観的に考えることができる。 既習の確率と条件付き確率の違いについて、図や表などを用いて考察することができる。</li> <li>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・独立な試行の確率について、興味をもって調べようとする。 ・条件付き確率や確率の乗法定理の考えに興味・関心をもち、積極的に活用しようとする。</li> </ol>	小テスト 定期テスト  定期テスト ノート  ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	

7月	9. 期待値	2	<p>① 知識・技能 ・期待値の定義を理解し、期待値を求めることができる。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・結果が不確実な状況下において、どの選択が合理的かを判断する基準として、期待値の考えを用いて考察することができる。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・日常の事象における不確実な事柄について判断する際に、期待値を用いて比較し、考察しようとする。</p>	<p>小テスト 定期テスト</p> <p>定期テスト ノート</p> <p>ノート 観察 発表 学習の振り返り</p>	<p>・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表</p>	<p>グループ活動 発表 レポート</p>
9月	第2章 図形の性質 1. 三角形の辺の比 2. 三角形の外心・内心・重心	4	<p>① 知識・技能 ・定理を適切に利用して、線分の比や長さを求めることができる。 ・三角形の外心、内心、重心の定義、性質を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・図形の性質を証明するのに、既習事項を用いて論理的に考察することができる。また、適切な補助線を引いて考察することができる。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・線分を内分・外分する点や、三角形の角の二等分線と比について調べようとする態度がある。 ・三角形の外心、内心、重心に関する性質に興味を示し、積極的に考察しようとする。</p>	<p>小テスト 定期テスト</p> <p>定期テスト ノート</p> <p>ノート 観察 発表 学習の振り返り</p>	<p>・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表</p>	<p>グループ活動 発表</p>
9月	3. チェバの定理・メネラウスの定理	2	<p>① 知識・技能 ・チェバの定理、メネラウスの定理を理解している。 ・チェバの定理、メネラウスの定理を、三角形に現れる線分比を求める問題に活用できる。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・チェバの定理、メネラウスの定理について、論理的に考察し、証明することができる。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・チェバの定理、メネラウスの定理に興味を示し、積極的に考察しようとする。 ・三角形の辺と角の大小関係という明らかに見える性質を、論理的に考察しようとする。</p>	<p>小テスト 定期テスト</p> <p>定期テスト ノート</p> <p>ノート 観察 発表 学習の振り返り</p>	<p>・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表</p>	<p>グループ活動 発表</p>
9月 10月	4. 円に内接する四角形	2	<p>① 知識・技能 ・円周角の定理と円周角の定理の逆を理解している。 ・円に内接する四角形の性質を利用して、角度を求めることができる。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・円に内接する四角形の性質について、論理的に考察することができる。 ・円に内接する四角形の性質に着目し、逆に、四角形が円に内接するための条件について論理的に考察することができる。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・三角形の外接円は必ず存在するが、三角形以外の場合は必ずしも存在しないことから、四角形が円に内接する条件を考察しようとする。</p>	<p>小テスト 定期テスト</p> <p>定期テスト ノート</p> <p>ノート 観察 発表 学習の振り返り</p>	<p>・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表</p>	<p>グループ活動 発表</p>
10月	5. 円と直線 6. 2つの円	6	<p>① 知識・技能 ・円の接線の性質や接線と弦の作る角の性質を利用して、線分の長さや角度を求めることができる。 ・方べきの定理を利用して、線分の長さなどを求めることができる。 ・2つの円が内接しているとき成り立つ性質を利用して角度を求めることができる。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・円と直線を動的にとらえて、それらの位置関係を考察することができる。 ・2つの円を動的にとらえて、それらの位置関係を考察することができる。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・相似を利用した方べきの定理の導き方に興味・関心をもつ。 ・2つの円の位置関係と、中心間の距離と半径の関係を積極的に考察しようとする。</p>	<p>小テスト 定期テスト</p> <p>定期テスト ノート</p> <p>ノート 観察 発表 学習の振り返り</p>	<p>・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表</p>	<p>グループ活動 発表</p>
11月	7. 作図	2	<p>① 知識・技能 ・中学校で学んだ垂線の作図を知っている。 ・線分の内分点・外分点の作図や、<math>b/a</math>や<math>ab</math>の長さをもつ線分の作図ができる。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・平行線と線分の比の性質を利用して、内分点・外分点の作図の方法や、<math>b/a</math>や<math>ab</math>の長さをもつ線分の作図の方法を考察することができる。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・数学で扱う作図と、日常において図形をかくことでは、何が違うか考えてみようとする。 ・コンピュータなどの情報機器を積極的に用いるなどして、作図の方針を立てようとする。</p>	<p>小テスト 定期テスト</p> <p>定期テスト ノート</p> <p>ノート 観察 発表 学習の振り返り</p>	<p>・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表</p>	<p>グループ活動 発表</p>
11月	8. 直線と平面 9. 空間図形と多面体	5	<p>① 知識・技能 ・空間における2直線の位置関係やなす角を理解している。 ・正多面体の特徴を理解し、それに基づいて面、頂点、辺の数を求めることができる。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・空間における直線と平面が垂直、平行になるための条件を、与えられた立体に当てはめて考察することができる。 ・正多面体の満たす条件を理解し、正多面体から切り取った立体がまた正多面体であることを示すことができる。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・空間における図形の位置関係について、積極的に考えてみようとする。 ・オイラーの多面体定理がどんな凸多面体でも成り立つかどうか調べてみようとする。</p>	<p>小テスト 定期テスト</p> <p>定期テスト ノート</p> <p>ノート 観察 発表 学習の振り返り</p>	<p>・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表</p>	<p>グループ活動 発表</p>

12月	第3章 数学と人間の活動 1. 約数と倍数	2	① 知識・技能 ・約数・倍数の意味を理解している。 ・いろいろな数の倍数の判定法を理解している。 ② 思考・判断・表現 ・4の倍数の判定法から類推して、8の倍数の判定法を考察することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・日常生活における具体的な事象の考察に、約数と倍数の考えを活用しようとする。 ・いろいろな数の倍数の判定法について調べようとする態度がある。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
12月	2. 素数と素因数分解 3. 最大公約数・最小公倍数	5	① 知識・技能 ・自然数の素因数分解を求めることができる。 ・素因数分解を利用して最大公約数・最小公倍数を求める方法を理解している。 ・互いに素の意味を理解している。 ② 思考・判断・表現 ・「エラトステネスのふるい」を使うことによって得られた数字の並びから、素数についてどのようなことが成り立つかを考察することができる。 ・身近な事象について数学的に捉え、最大公約数・最小公倍数との関係について考察することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・数学史に興味・関心をもち、素数と素因数分解について学ぼうとする態度がある。 ・暗号技術に素因数分解の考えが活用されていることに、興味・関心をもち。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
1月	4. 整数の割り算 5. ユークリッドの互除法	5	① 知識・技能 ・整数aを正の整数bで割る割り算を、aとbの間に成り立つ等式として捉えることができる。 ・互除法の原理を理解し、互除法を用いて2数の最大公約数を求めることができる。 ② 思考・判断・表現 ・問題解決の過程を振り返って、割り算の余りの性質について考察を深めることができる。 ・長方形を正方形で敷き詰める操作で辺の長さを有理数、無理数の範囲まで拡張することで $\sqrt{2}$ が無理数であることを証明できることについて考察することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・数学史の話題を通じて、割り算の方法や割り算の余りの性質に興味・関心をもち。 ・素因数分解をしなくても、互除法によって最大公約数が求められることに興味・関心をもち。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表 レポート	
2月	6. 1次不定方程式	3	① 知識・技能 ・1次不定方程式の特殊解を求め、それによりすべての整数解を求めることができる。 ② 思考・判断・表現 ・天秤ばかりのつり合いや油分け算などの日常的問題について、1次不定方程式と関連付けて考察することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・互除法を利用するなどして、条件を満たす2数の組を求める方法に興味・関心をもち。 ・天秤ばかりのつり合いや油分け算などの日常的問題について、1次不定方程式と関連付けて考察しようとする態度がある。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
2月	7. 記数法	2	① 知識・技能 ・記数法、10進法、2進法、n進法について理解している。 ② 思考・判断・表現 ・現代の記数法を古代の記数法と比較し、特徴を説明することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・コンピュータなどの身近な物に、n進法の考え方が活用されていることに興味・関心をもち。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表 プレゼンテーション	情報科
3月	8. 座標の考え方	1	① 知識・技能 ・地上における特定の地点を、座標平面上の点と捉えて位置を座標で表現できる。 ② 思考・判断・表現 ・座標平面上の点の位置を特定するために、条件から図形の性質に着目し、適切な定理を利用して考察することができる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・平面上の点の位置に関する問題を、座標平面上で代数的に解決する解法のよさを知ろうとする。 ・カーナビゲーションによる自動車の位置の特定において、座標の考えが活用されていることに興味・関心をもち。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表	
3月	9. ゲーム・パズルの中の数学	2	① 知識・技能 ・三目並べのルールを理解している。 ・魔方陣のルールを理解している。 ② 思考・判断・表現 ・ゲームの設定を多面的かつ論理的に考え、ゲームで勝つ方法を導くことができる。 ・魔方陣の構造を考察し、成り立つと推察される性質について実際に成り立つことを証明できる。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・ゲームで勝つ方法やパズルの仕組みなどを、論理的に考察しようとする。 ・自国だけでなく、他国のゲームにも興味・関心をもち、他国の文化への理解を深めようとする。	小テスト 定期テスト 定期テスト ノート ノート 観察 発表 学習の振り返り	・例題 ・問題演習 ・グループ活動 ・発表	グループ活動 発表 レポート	
指導時間数の計		70					

学校の教育目標	<p>「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」</p> <p>1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。</p> <p>2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。</p> <p>3 自励心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。</p> <p>4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。</p> <p>5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。</p>
---------	--

教科の目標	<p>○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) 授業において、基礎学力の確実な習得を目指す。</p> <p>○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) 課題について自ら考えるときも、実験を通して科学的に考える力を養う。</p> <p>○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等) 他者との学び合いの中で、自分の考えを表現する力を育む。</p>
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
物理基礎	2	全日制・普通科・1学年	高等学校 新物理基礎(第一学習社)

科目の目標	<p>(1)日常生活や社会との関連を図りながら、物体の運動と様々なエネルギーについて理解するとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験など関する基本的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2)観察、実験などを行い、科学的に探求する力を養う。</p> <p>(3)物体の運動と様々なエネルギーに主体的に関わり、科学的に探求しようとする態度を養う。</p>
-------	--

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	第1章 運動とエネルギー 第1節 物体の運動 1 速さ 2 等速直線運動 3 変位と速度 4 速度の合成・相対速度	6	<p>① 知識・技能 ・速さと速度の違いが理解でき、数直線上の速度の合成と相対速度の計算ができる。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・物体の速度とそれによる移動距離の関係が説明できる。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りにおける運動の速度の合成や相対速度に関して興味関心を持ち、もっと知ろうとする。</p>	<p>・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集</p> <p>・ 考査 ・ 授業ノート</p> <p>・ 授業ノート ・ グループワーク</p>	<p>・ 例題 ・ 問題演習</p>	身の回りにおける速度の合成や相対速度を出し合い、共有する。	数学
5月	第1章 運動とエネルギー 第1節 物体の運動 5 加速度 6 等加速度直線運動(1) 7 等加速度直線運動(2) 8 重力加速度と自由落下 9 鉛直投射 10 水平投射	7	<p>① 知識・技能 ・物体の運動に速度、加速度と移動距離の関係を理解できている。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・加速度と移動距離の関係を理解して、式で説明することができる。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りにおける加速度を持つ物体の移動距離について興味関心を持ち、もっと知ろうとする。</p>	<p>・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集</p> <p>・ 考査 ・ 授業ノート</p> <p>・ 授業ノート ・ グループワーク ・ 観察活動</p>	<p>・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 観察活動 ・ 発表</p>	身の回りにおける加速度を持つ物体の移動距離についてグループで話し合い、共有する。	数学
6月	第1章 運動とエネルギー 第2節 力と運動の法則 1 力と運動 2 いろいろな力 3 力の合成・分解 4 力のつり合い 5 作用・反作用	4	<p>① 知識・技能 ・ベクトルを利用した力の表記方法を理解して、実際にベクトルの記述ができる。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・同じ向きでの力でも“力のつり合い”と“作用・反作用”の区別が付き、説明することができる。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りにおける力の力のつり合いや作用・反作用について興味関心を持ち、もっと知ろうとする。</p>	<p>・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集</p> <p>・ 考査 ・ 授業ノート</p> <p>・ 授業ノート ・ グループワーク ・ 観察活動</p>	<p>・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 観察活動 ・ 発表</p>	身の回りにおける力のつり合いや、作用・反作用の関係にある力を出し合い、全員で共有する。	数学
7月	第1章 運動とエネルギー 第2節 力と運動の法則 6 慣性の法則 7 力と質量と加速度の関係(1) 8 力と質量と加速度の関係(2) 9 運動の法則 10 摩擦力 11 流体から受ける力	6	<p>① 知識・技能 ・物体の運動方程式を立てることができる。またこれを用いて、物体の加速度を計算することができる。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・物体にかかる力や方向を判断し、自分で運動方程式を立てることができる。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りにおける物体の運動方程式に興味関心を持ち、もっと知ろうとする。</p>	<p>・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集</p> <p>・ 考査 ・ 授業ノート</p> <p>・ 授業ノート ・ グループワーク ・ 観察活動</p>	<p>・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 観察活動 ・ 発表</p>	身の周りにおける物体の運動について運動方程式を立てて、全員で共有する。	数学
9月	第1章 運動とエネルギー 第3節 仕事と力学的エネルギー 1 力がする仕事 2 仕事の原理と仕事率 3 運動エネルギー 4 重力による位置エネルギー 5 弾性力による位置エネルギー 6 力学的エネルギー(1) 7 力学的エネルギー(2)	8	<p>① 知識・技能 ・物体にかかる仕事について計算することができる。また、仕事率の計算もすることができる。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・運動エネルギーや位置エネルギーについて理解しており、説明することができる。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りの物体の力学的エネルギーについて興味関心を持ち、もっと知ろうとする。</p>	<p>・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集</p> <p>・ 考査 ・ 授業ノート</p> <p>・ 授業ノート ・ グループワーク ・ 実験</p>	<p>・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 実験 ・ 発表</p>	身の回りにおける物体の力学的エネルギーを求めて、全員で共有する。	数学
	第II章 熱		<p>① 知識・技能 ・熱について理解できている。また、熱容量と比熱の関係が理解できている。</p>	<p>・ 考査 ・ 授業ノート ・ 問題集</p>	<p>・ 例題 ・ 問題演習 ・ グループワーク ・ 実験 ・ 発表</p>	身の回りにおける物体の暖まり方、熱容量や比熱との関係について議論し、その結果を共有する。	数学

10月	第1節 熱とエネルギー 1温度と熱運動 2熱と熱平衡 3熱量の保存 4物質の三態 5熱と仕事 6エネルギーの変換と保存	8	② 思考・判断・表現 ・潜熱を含めて、物体に熱量を加えたときの物体の温度を求めることができる。また、その理由を説明できる。  ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りにおける物体に関して、温まりやすさや熱容量、比熱の関係について興味関心を持ち、もっと知ろうとする。	・考査 ・授業ノート  ・授業ノート ・グループワーク ・実験			
11月	第III章 波動  第1節 波の性質 1波と振動 2波の表し方 3横波と縦波 4波の重ね合わせ 5定常波 6波の反射	7	① 知識・技能 ・波の性質について理解できている。また、縦波と横波の区別をつけることができる。  ② 思考・判断・表現 ・波が重なると、どのような形になるかを説明できる。  ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りにおける物で、波の性質をもつものなどに興味関心を持ち、もっと知ろうとする。	・考査 ・授業ノート ・問題集  ・考査 ・授業ノート  ・授業ノート ・グループワーク ・実験	・例題 ・問題演習 ・グループワーク ・実験 ・発表	身の回りにおける波の性質を持つ物をあげてもらい、全員で共有する。	数学
12月	第III章 波動  第2節 音波 1音の速さと3要素 2波としての音の性質 3弦の固有振動 4気柱の固有振動	6	① 知識・技能 ・音の性質について理解する。また、音も波の一種ということを理解する。  ② 思考・判断・表現 ・ある温度のときの音速を計算することができる。また、温度によって、音速が変わることを説明できる。  ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りにおける音について、興味関心を持ち、もっと知ろうとする。	・考査 ・授業ノート ・問題集  ・考査 ・授業ノート  ・授業ノート ・グループワーク ・実験	・例題 ・問題演習 ・グループワーク ・実験 ・発表	音の聞こえる時間から落雷までも距離を求めて、全員で共有する。	数学
1月	第IV章 電気  第1節 電荷と電流 1電荷 2電流と電気抵抗 3物質と抵抗率 4抵抗の接続 5電力量と電力	6	① 知識・技能 ・電流、電圧、抵抗の関係を理解できている。  ② 思考・判断・表現 ・直列や並列の繋ぎ方で電流、電圧の値が変化することが説明することができる。  ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りにおける電気の流れの電流、電圧の値などに興味関心を持ち、もっと知ろうとする。	・考査 ・授業ノート ・問題集  ・考査 ・授業ノート  ・授業ノート ・グループワーク ・実験	・例題 ・問題演習 ・グループワーク ・実験 ・発表	身の回りにおけるコンセントなどが直列つなぎなのか並列つなぎなのか議論し、その結果を共有する。	数学
2月	第IV章 電気  第2節 電流と磁場 1磁場 2モーターと発電機 3交流の発生と利用 4電磁波	8	① 知識・技能 ・磁場の性質について理解する。また、その利用方法について理解する。  ② 思考・判断・表現 ・磁場の向きについて、右ネジの法則などを用いて説明することができる。  ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りの磁場について興味関心を持ち、もっと知ろうとする。	・考査 ・授業ノート ・問題集  ・考査 ・授業ノート  ・授業ノート ・グループワーク ・実験	・例題 ・問題演習 ・グループワーク ・実験 ・発表	場面場面の磁場の向きについてグループで話し合い、結果を全員で共有する。	数学
3月	第IV章 電気  第3節 エネルギーとその利用 1太陽エネルギーの利用 2原子核と放射線 3原子力とその利用	4	① 知識・技能 ・いろいろな種類の発電の方法について理解する。  ② 思考・判断・表現 ・いろいろな種類の発電の方法について、何からエネルギーを得ているのかを説明することができる。  ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・身の回りにおける電気や放射線などについて興味関心を持ち、もっと知ろうとする。	・考査 ・授業ノート ・問題集  ・考査 ・授業ノート  ・授業ノート ・グループワーク	・例題 ・問題演習 ・グループワーク ・実験 ・発表	グループでいろいろな発電方法について調べ、その結果を発表する。	数学
指導時間数の計		70					

学校の教育目標	<p>「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」</p> <p>1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。</p> <p>2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。</p> <p>3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。</p> <p>4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。</p> <p>5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。</p>
---------	--

教科の目標	<p>○何を理解しているか、何ができるか(知識及び技能) 授業において、基礎学力の確実な習得を目指す。</p> <p>○理解していること・できることをどう使うか(思考力、判断力、表現力等) 課題について自ら考えたとともに、実験を通して科学的に考える力を養う。</p> <p>○どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか(学びに向かう力、人間性等) 他者との学び合いの中で、自分の考えを表現する力を育む。</p>
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
生物基礎	2	全日制・普通科・1年	高等学校新生物基礎
科目の目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め、目的意識をもって観察、実験などを行い、生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに		

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 <単元・題材の評価規準>	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 2週 ～4週 7日	第1章 生物の特徴 第1節 生物の共通性	7	<p>① 知識・技能 生物の共通性と多様性について理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 観察・実験において考察ができる。 生物は多様であっても共通の特徴があることを考察し、導き出した考えを表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 生物の共通性と多様性について関心をもち、主体的に探究している。 観察・実験に主体的に取り組んでいる。</p>	<p>【小テスト】 【定期考査】 生物の共通性と多様性について理解している。</p> <p>【ワークシート】 【実験ワークシート】 授業についてのワークシート、観察・実験のワークシートを作成している。</p> <p>【学習活動への取組】 生物の共通性と多様性について主体的に調べようとしている。</p>	<p>○中学校では、第2分野「(1) (4) 生物の体の共通点と相違点」で生物の共通性について、「(5) (6) 生物の種類の多様性と進化」で生物の多様性について、「(3) (7) 生物と細胞」で細胞の構造について学習している。中学での学習成果を踏まえ、探究的な学習につなげる。</p> <p>○身近な動植物などの生物を例にして、多様性と共通性について考えさせる。</p> <p>○身の回りにおけるさまざまな細胞を顕微鏡を用いて観察し、顕微鏡の使用法、スケッチの仕方を身に付けさせる。</p>	<p>○生物の多様性と共通性について考え、図表などに表現させる。</p> <p>○観察・実験のグループ活動において、他者の意見を聞き、自分の意見をわかりやすく伝えさせる。</p>	
4月 5週 ～5週 3週 7日	第2節 生物とエネルギー	8	<p>① 知識・技能 細胞の構造・代謝について理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 観察・実験において、考察ができる。 光合成や呼吸によるエネルギーの移動について考察し、導き出した考えを表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 エネルギーと代謝について関心をもち、主体的に探究している。 観察・実験に主体的に取り組んでいる。</p>	<p>【小テスト】 【定期考査】 細胞の構造・代謝について理解している。</p> <p>【ワークシート】 【実験ワークシート】 授業についてのワークシート、観察・実験のワークシートを作成している。</p> <p>【学習活動への取組】 エネルギーと代謝について主体的に調べようとしている。</p>	<p>○中学校では、第2分野「(3) (4) 植物の体のつくりと働き」「(3) (6) 動物の体のつくりと働き」で、光合成・呼吸の仕組みについて学習している。中学での学習成果を踏まえ、探究的な学習につなげる。</p> <p>○光合成や呼吸におけるエネルギーの移り変わりについて調べさせる。</p> <p>○酵素活性の実験において、結果をワークシートに記録、整理させる。</p>	<p>○光合成や呼吸のしくみについて、グラフや図表などを読み取らせる。</p> <p>○酵素の実験において、課題を設定し実験の結果から考察させる。</p>	
5月 4週 ～6月 2週 6日	第2章 遺伝子とその働き 第1節 遺伝情報とDNA	6	<p>① 知識・技能 DNAや細胞分裂の特徴について理解している。 DNAが抽出される仕組みを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 観察・実験において、考察ができる。 DNAの構造が遺伝情報を担い得る特徴をもつことを考察し、導き出した考えを表現している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 DNAや細胞分裂について関心をもち、主体的に探究している。 観察・実験に主体的に取り組んでいる。</p>	<p>【小テスト】 【定期考査】 DNAや細胞分裂の特徴について理解している。</p> <p>【ワークシート】 【観察・実験ワークシート】 授業についてのワークシート、観察・実験のワークシートを作成している。</p> <p>【学習活動への取組】 DNAや細胞分裂について主体的に調べようとしている。</p>	<p>○中学校では、第2分野「(5) (4) 遺伝の規則性と遺伝子」で、遺伝現象について学習している。中学での学習成果を踏まえ、探究的な学習につなげる。</p> <p>○DNAが発見されるまでの研究史をレポートにまとめさせる。</p> <p>○DNAの抽出実験において、どのような材料だとDNAを抽出しやすいかを調べさせる。</p>	<p>○DNAが発見されるまでの研究史について調べ、情報をレポートにまとめさせる。</p> <p>○DNAの抽出実験において、どのような材料だとDNAを抽出しやすいかを調べさせる。</p> <p>○DNAの抽出実験において、どのような材料だとDNAを抽出しやすいかを調べさせる。</p>	

6月3週～7月1週5日	第2節 遺伝情報とタンパク質の合成	7	① 知識・技能 DNAや細胞分裂の特徴について理解している。 DNAが抽出される仕組みを理解している。	【小テスト】 【定期考査】 DNAやタンパク質の合成について理解している。	○中学校では、第2分野「(5)(7)生物の成長と殖え方」「(5)(4)遺伝の規則性と遺伝子」で、遺伝現象や細胞分裂について学習している。中学での学習成果を踏まえ、探究的な学習につなげる。 ○細胞分裂を通してDNAがどのように分配されるのかを、図表などを参考にしながら考察させる。 ○細胞周期の観察の操作を身に付け、顕微鏡を用いて各時期の細胞を観察させる。	○遺伝情報からタンパク質が合成される過程を、図表などを用いてわかりやすく表現させる。 ○実験観察において、だ腺染色体にはDNAだけでなくRNAが含まれていることを各グループでの意見交換によって考察を深める。		
7月2週～10月1週10日	第3章 ヒトのからだの調節 第1節 からだの調節と情報の伝達	10	① 知識・技能 体内環境の維持には自律神経やホルモンが関わっていることを理解している。	【小テスト】 【定期考査】 体液や腎臓の働きについて理解している。	○中学校では、第2分野「(3)(ウ)動物の体のつくりと働き」で、体内における物質の運搬や必要な物質の取入れ・不要な物質の排出について学習している。中学での学習成果を踏まえ、探究的な学習につなげる。 ○自らの体内において行われている体液や各器官の働きを図や映像などを通して学習し、ワークシートにまとめさせる。 ○血球の観察を行い、赤血球と白血球の特徴を表にまとめさせる	○腎臓の働きを図表などを用いてわかりやすく表現させる。 ○血球の観察を行い、赤血球と白血球の特徴を表にまとめさせる。	道徳	
10月1週～11月4週11日	第2節 免疫	11	① 知識・技能 免疫とそれに関係する細胞について理解している。	【小テスト】 【定期考査】 生体防御のしくみについて理解している。	○中学校では、第2分野「(3)(ウ)動物の体のつくりと働き」で、動物の体の仕組みについて、保健体育「(1)(ア)健康の成り立ちと疾病の発生要因」で、疾病の要因について学習している。中学での学習成果を踏まえ、探究的な学習につなげる。 ○自身がかかる疾病や医療など身近な事象を例にして、自然免疫と獲得免疫の仕組みについて学習する。	○免疫が身近な部分で関連することがないかをペアで意見交換させる。 ○赤血球をさまざまな溶液に浸したときに、水がどのように移動しているかをグループで話し合い、お互いの意見をまとめさせる。		
12月1週～1月3週9日	第4章 生物の多様性と生態系 第1節 植生と遷移	9	① 知識・技能 植生の移り変わりやバイオームについて理解している。	【小テスト】 【定期考査】 植生の移り変わりやバイオームについて理解している。	○中学校では、第2分野第2分野「(3)(イ)植物の体のつくりと働き」で、光合成について学習している。中学での学習成果を踏まえ、探究的な学習につなげる。 ○身の回りの植物を例にして、どのように成長しているのかを考えさせる。 ○中学校では、第2分野「(7)(7)生物と環境」で、植物を含めた自然環境について学習している。中学での学習成果を踏まえ、探究的な学習につなげる。 ○植物が成長するためにどのような条件が必要なのかを考えさせる。 ○さまざまな植物の特徴を捉え、どの植物に分類できるか同定させる。	○植物の成長について、図表をもとに学習する。 ○グループで植物組織の観察をし、その特徴をわかりやすく表現させる。	地歴公民	
1月4週～3月3週9日	第2節 生態系とその保全	9	① 知識・技能 生態系のバランスについて理解し、生態系の保全の重要性について認識している。	【小テスト】 【定期考査】 生態系のバランスについて理解している。	○中学校では、第1分野「(7)(7)エネルギーと物質」で、日常生活や社会で使われているエネルギーや物質について学習している。中学での学習成果を踏まえ、探究的な学習につなげる。 ○人間がどのように自然環境に影響を与えているのかを考えながら、物質の循環やエネルギーの流れを学習させる。 ○水質や大気などの環境調査の方法を習得させ、身の回りの環境がどのような状態なのかを考えさせる。	○人間がどのように自然環境に影響を与えているのかをグループで意見交換しまとめさせる。 ○身近な特定外生物が生態系に与えている影響を与えているか、どうすれば改善できるかをグループで話し合い、レポートにまとめさせる。その後、レポートをもとに自分の意見を発表させる。	地歴公民	
指導時間数の計		70						

学校の教育目標	<p>「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」</p> <p>1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。</p> <p>2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。</p> <p>3 自励心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。</p> <p>4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。</p> <p>5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。</p>
---------	--

教科の目標	<p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</p>
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
体育	2	全日制・普通科・1学年	現代高等保健体育(大修館書店)

科目の目標	<p>体育の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって豊かなスポーツライフを継続するとともに、自己の状況に応じて体力の向上を図るための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 運動の合理的、計画的な実践を通して、運動の楽しさや喜びを深く味わい、生涯にわたって運動を豊かに継続することができるようにするため、運動の多様性や体力の必要性について理解するとともに、それらの技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 生涯にわたって運動を豊かに継続するための課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝える力を養う。</p> <p>(3) 運動における競争や協働の経験を通して、公正に取り組む、互いに協力する、自己の責任を果たす、参画する、一人一人の違いを大切にしようとするなどの意欲を育てるとともに、健康・安全を確保して、生涯にわたって継続して運動に親しむ態度を養う。</p>
-------	--

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資 質・能力の育成に関わ る他教科等との関連
4月 第2週 ～ 5月 第1週	体づくり運動	9	<p>① 知識・運動 運動を継続する意義、体の構造、運動の原則などを理解している。 健康の保持増進や体力の向上を目指し、目的に適した運動の計画を立て取り組むことができる。</p> <p>② 思考・判断・表現 自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 体づくり運動に自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、一人一人の違いに応じた動きなどを大切にしようとする、話合いに貢献しようとするなどをして、健康・安全を確保したりしている。</p>	<p>観察 学習カード</p> <p>観察 学習カード</p> <p>観察 学習カード</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個別の運動実践</li> <li>・課題の整理(個別)</li> <li>・運動計画の作成(グループワーク)</li> <li>・計画の発表</li> <li>・計画の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・意義・原則等を理解し説明する。</li> <li>・自らの考えを整理し、他者に伝える。</li> <li>・自分の考えやグループの考えを発展させる。</li> <li>・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育理論(豊かなスポーツライフの設計の仕方)</li> <li>・保健(精神疾患の予防と回復)</li> <li>・家庭基礎(生涯の生活設計)</li> </ul>
5月 第2週 ～ 6月 第1週	球技 (ネット型) ・卓球 ・バドミントン ・バレー	9	<p>① 知識・運動 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。</p> <p>② 思考・判断・表現 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。</p>	<p>テスト 観察</p> <p>観察 学習カード</p> <p>観察 学習カード</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人練習</li> <li>・課題の整理(ペアワーク)</li> <li>・練習計画の作成(ペアワーク)</li> <li>・計画の発表</li> <li>・計画の実践</li> <li>・知識テスト</li> <li>・リーグ戦運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術を解釈し説明する。</li> <li>・自らの考えを整理し、他者に伝える。</li> <li>・自分の考えやチームの考えを発展させる。</li> <li>・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育理論(運動やスポーツの効果的な学習の仕方)</li> </ul>
6月 第2週 ～ 7月 第2週	球技 (ゴール型) ・バスケットボール ・サッカー	9	<p>① 知識・運動 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。</p> <p>② 思考・判断・表現 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。</p>	<p>テスト 観察</p> <p>観察 学習カード</p> <p>観察 学習カード</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人練習</li> <li>・グループ練習</li> <li>・課題の整理(グループワーク)</li> <li>・練習計画の作成(ペアワーク)</li> <li>・計画の発表</li> <li>・計画の実践</li> <li>・知識テスト</li> <li>・リーグ戦運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術を解釈し説明する。</li> <li>・自らの考えを整理し、他者に伝える。</li> <li>・自分の考えやチームの考えを発展させる。</li> <li>・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育理論(運動やスポーツの効果的な学習の仕方)</li> </ul>

7月 第3週	体育理論 (スポーツの発祥と発展) ・スポーツの始まりと変遷 ・文化としてのスポーツ ・オリンピックとパラリンピックの意義	3	① 知識・運動 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。	ワークシート テスト	・講義 ・ワークシート作業 (課題の整理) (発表) ・小テスト	・事実を正確に理解し伝達する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・保健(医薬品)
			② 思考・判断・表現 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	ワークシート 観察			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組んでいる。	ワークシート 観察			
9月 第1週 ～ 10月 第1週	ダンス ・現代的リズムのダンス	9	① 知識・運動 ダンスの名称や用語、踊りの特徴と表現の仕方、交流や発表の仕方、運動観察の方法、体力の高め方などを理解している。 リズムの特徴を捉え、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って体幹部を中心に全身で自由に弾んで踊ることができるようにする。	テスト 観察	・ペアワーク ・グループワーク ・発表	・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えや集団の考えを発展させる。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・体育理論(豊かなスポーツライフの設計の仕方)
			② 思考・判断・表現 表現などの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	観察 学習カード			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ダンスに自主的に取り組むとともに、互いに助け合い教え合おうとすること、作品や発表などの話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じた表現や役割を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	観察 学習カード			
10月 第2週 ～ 11月 第1週	陸上競技	10	① 知識・運動 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 自己に適したペースを維持して走ることができる。	観察 学習カード	・グループワーク ・練習計画の作成	・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えや集団の考えを発展させる。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・体育理論(豊かなスポーツライフの設計の仕方)
			② 思考・判断・表現 動きなどの自己や仲間の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えている。	観察 学習カード			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 陸上競技に自主的に取り組むとともに、勝敗などを冷静に受け止め、ルールやマナーを大切にしようとする、自己の責任を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にしようとするなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	観察 学習カード			
11月 第2週 ～ 12月 第3週	球技 (ネット型) ・卓球 ・バドミントン ・バレー	9	① 知識・運動 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 役割に応じたボール操作や安定した用具の操作と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができる。	テスト 観察	・個人練習 ・課題の整理 (ペアワーク) ・練習計画の作成 (ペアワーク) ・計画の発表 ・計画の実践 ・知識テスト ・リーグ戦運営	・技術を解釈し説明する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・自分の考えやチームの考えを発展させる。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・体育理論(運動やスポーツの効果的な学習の仕方)
			② 思考・判断・表現 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。	観察 学習カード			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。	観察 学習カード			
1月 第2週	体育理論 (スポーツの発祥と発展) ・スポーツが経済に及ぼす効果 ・スポーツの高潔さとドーピング ・スポーツと環境	3	① 知識・運動 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について理解している。	ワークシート テスト	・講義 ・ワークシート作業 (課題の整理) (発表) ・小テスト	・事実を正確に理解し伝達する。 ・自らの考えを整理し、他者に伝える。 ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	・保健(医薬品)
			② 思考・判断・表現 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展について、課題を発見し、よりよい解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝えている。	ワークシート 観察			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 スポーツの文化的特性や現代のスポーツの発展についての学習に自主的に取り組んでいる。	ワークシート 観察			

1月 第3週 ～ 3月 第3週	球技 (ゴール型) ・バスケットボール ・サッカー	9	<p>① 知識・運動 技術の名称や行い方、体力の高め方、運動観察の方法などを理解している。 安定したボール操作と空間を作りだすなどの動きによってゴール前への侵入などから攻防をすることができる。</p> <p>② 思考・判断・表現 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えている。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、作戦などについての話し合いに貢献しようとする、一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどをしたり、健康・安全を確保したりしている。</p>	<p>テスト 観察</p> <p>観察 学習カード</p> <p>観察 学習カード</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人練習</li> <li>・グループ練習</li> <li>・課題の整理 (グループワーク)</li> <li>・練習計画の作成 (ペアワーク)</li> <li>・計画の発表</li> <li>・計画の実践</li> <li>・知識テスト</li> <li>・リーグ戦運営</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・技術を解釈し説明する。</li> <li>・自らの考えを整理し、他者に伝える。</li> <li>・自分の考えやチームの考えを発展させる。</li> <li>・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・体育理論(運動やスポーツの効果的な学習の仕方)</li> </ul>
指導時間数の計		70					

学校の教育目標	<p>「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。</li> <li>2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。</li> <li>3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。</li> <li>4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。</li> <li>5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。</li> </ol>
---------	---

教科の目標	<p>体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを継続するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。</li> <li>(2) 運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。</li> <li>(3) 生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</li> </ol>
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
保健	1	全日制・普通科・1学年	現代高等保健体育(大修館書店)

科目の目標	<p>保健の見方・考え方を働かせて、合理的、計画的な解決に向けた学習過程を通して、生涯を通じて人々が自らの健康や環境を適切に管理し、改善していくための資質・能力を次のとおり育成する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 個人及び社会生活における健康・安全について理解を深めるとともに、技能を身に付けるようにする。</li> <li>(2) 健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。</li> <li>(3) 生涯を通じて自他の健康の保持増進やそれを支える環境づくりを目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。</li> </ol>
-------	--

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 第2週 ～ 5月 第1週	(1)現代社会と健康 01健康の考え方と成り立ち 02私たちの健康のすがた	3	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 知識 国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること、健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わることを理解している。</li> <li>② 思考・判断・表現 健康の考え方に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明している。</li> <li>③ 主体的に学習に取り組む態度 健康の考え方についての学習に主体的に取り組もうとしている。</li> </ol>	<p>観察 テスト</p> <p>観察 保健体育ノート</p> <p>観察 保健体育ノート</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義</li> <li>・保健体育ノート</li> <li>・グループワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を分析・評価し、議論する。</li> <li>・自分の考えやグループの考えを発展させる。</li> </ul>	
5月 第2週 ～ 6月 第3週	(1)現代社会と健康 03生活習慣病の予防と回復 04がんの原因と予防 05がんの治療と回復	5	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 知識 健康の保持増進と生活習慣病などの予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活の実践や疾病の早期発見、及び社会的な対策が必要であることを理解している。</li> <li>② 思考・判断・表現 生活習慣病などの予防と回復に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明している。</li> <li>③ 主体的に学習に取り組む態度 生活習慣病などの予防と回復についての学習に主体的に取り組もうとしている。</li> </ol>	<p>観察 テスト</p> <p>観察 保健体育ノート</p> <p>観察 保健体育ノート</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義</li> <li>・保健体育ノート</li> <li>・グループワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則や概念を理解し説明する。</li> <li>・自らの考えを整理し、他者に伝える。</li> <li>・自分の考えや集団の考えを発展させる。</li> <li>・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。</li> </ul>	家庭基礎 「食品と健康」
6月 第4週 ～ 7月 第3週	(1)現代社会と健康 06運動と健康 07食事と健康 08休養・睡眠と健康	4	<ol style="list-style-type: none"> <li>① 知識 がん、脳血管疾患、虚血性心疾患などを適宜取り上げ、リスクを軽減し予防するには、適切な運動、食事、休養及び睡眠など、健康的な生活を続けることが必要であること、定期的な健康診断やがん検診などを受診することが必要であることについて、理解したことを言ったり書いたりしている。</li> <li>② 思考・判断・表現 生活習慣病などの予防と回復について、健康に関わる原則や概念を基に整理したり、個人及び社会生活と関連付けたりして、自他や社会の課題を発見している。</li> <li>③ 主体的に学習に取り組む態度 生活習慣病とその予防について、課題の解決に向けた学習に主体的に取り組もうとしている。</li> </ol>	<p>観察 テスト</p> <p>観察 保健体育ノート</p> <p>観察 保健体育ノート</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義</li> <li>・保健体育ノート</li> <li>・グループワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報を分析・評価し、議論する。</li> <li>・自分の考えやグループの考えを発展させる。</li> </ul>	

<p>9月 第1週 ～ 9月 第4週</p>	<p>(1)現代社会と健康 09喫煙と健康 10飲酒と健康 11薬物乱用と健康</p>	<p>4</p>	<p>① 知識 喫煙と飲酒は、生活習慣病などの要因になること、薬物乱用は、心身の健康や社会に深刻な影響を与えることから行ってはならないこと、それらの対策には、個人や社会環境への対策が必要であることを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 喫煙、飲酒、薬物乱用と健康についての学習に自主的に取り組もうとしている。</p>	<p>観察 テスト</p> <p>観察 保健体育ノート</p> <p>観察 保健体育ノート</p>	<p>・講義 ・保健体育ノート ・グループワーク</p>	<p>・情報を分析・評価し、議論する。</p> <p>・自分の考えやグループの考えを発展させる。</p>	
<p>10月 第1週 ～ 10月 第4週</p>	<p>(1)現代社会と健康 12精神疾患の特徴 13精神疾患の予防 14精神疾患からの回復</p>	<p>4</p>	<p>① 知識 精神疾患の予防と回復には、運動、食事、休養及び睡眠の調和のとれた生活を実践するとともに、心身の不調に気付くことが重要であること、疾病の早期発見及び社会的な対策が必要であることを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 精神疾患の予防と回復に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 精神疾患の予防と回復についての学習に自主的に取り組もうとしている。</p>	<p>観察 テスト</p> <p>観察 保健体育ノート</p> <p>観察 保健体育ノート</p>	<p>・講義 ・保健体育ノート ・グループワーク</p>	<p>・原則や概念を理解し説明する。</p> <p>・自らの考えを整理し、他者に伝える。</p> <p>・自分の考えや集団の考えを発展させる。</p> <p>・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。</p>	
<p>11月 第1週 ～ 11月 第4週</p>	<p>(1)現代社会と健康 15現代の感染症 16感染症の予防 17性感染症・エイズとその予防</p>	<p>4</p>	<p>① 知識 感染症の発生や流行には、時代や地域によって違いがみられること、その予防には、個人の取組及び社会的な対策を行う必要があることを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 現代の感染症とその予防に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 現代の感染症とその予防についての学習に自主的に取り組もうとしている。</p>	<p>観察 テスト</p> <p>観察 保健体育ノート</p> <p>観察 保健体育ノート</p>	<p>・講義 ・保健体育ノート ・グループワーク</p>	<p>・原則や概念を理解し説明する。</p> <p>・自らの考えを整理し、他者に伝える。</p> <p>・自分の考えや集団の考えを発展させる。</p> <p>・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。</p>	
<p>12月 第1週 ～ 1月 第2週</p>	<p>(1)現代社会と健康 18健康に関する意思決定・行動選択 19健康に関する環境づくり</p>	<p>3</p>	<p>① 知識 国民の健康課題や健康の考え方は、国民の健康水準の向上や疾病構造の変化に伴って変わってきていること、健康は、様々な要因の影響を受けながら、主体と環境の相互作用の下に成り立っていること、健康の保持増進には、ヘルスプロモーションの考え方を踏まえた個人の適切な意思決定や行動選択及び環境づくりが関わることを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 健康の考え方に関わる事象や情報から課題を発見し、疾病等のリスクの軽減、生活の質の向上、健康を支える環境づくりなどと、解決方法を関連付けて考え、適切な方法を選択し、それらを説明している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 健康の考え方についての学習に自主的に取り組もうとしている。</p>	<p>観察 テスト</p> <p>観察 保健体育ノート</p> <p>観察 保健体育ノート</p>	<p>・講義 ・保健体育ノート ・グループワーク</p>	<p>・情報を分析・評価し、議論する。</p> <p>・自分の考えやグループの考えを発展させる。</p>	
<p>1月 第3週 ～ 2月 第3週</p>	<p>(2)安全な社会生活 01事故の現状と発生要因 02安全な社会の形成 03交通における安全</p>	<p>4</p>	<p>① 知識 安全な社会づくりには、環境の整備とそれに応じた個人の取組が必要であること、交通事故を防止するには、車両の特性の理解、安全な運転や歩行など適切な行動、自他の生命を尊重する態度、交通環境の整備が関わること、交通事故には補償をはじめとした責任が生じることを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 安全な社会づくりに関わる事象や情報から課題を発見し、自他や社会の危険の予測を基に、危険を回避する方法を選択し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 安全な社会づくりに関する学習に自主的に取り組もうとしている。</p>	<p>観察 テスト</p> <p>観察 保健体育ノート</p> <p>観察 保健体育ノート</p>	<p>・講義 ・保健体育ノート ・グループワーク</p>	<p>・原則や概念を理解し説明する。</p> <p>・自らの考えを整理し、他者に伝える。</p> <p>・自分の考えや集団の考えを発展させる。</p> <p>・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。</p>	

2月 第4週 ～ 3月 第3週	(2)安全な社会生活 04応急手当の意義とその基本 05日常的な応急手当 06心肺蘇生法	4	① 知識 適切な応急手当は、傷害や疾病の悪化を軽減できること、応急手当には、正しい手順や方法があること、応急手当は、傷害や疾病によって身体が時間の経過とともに損なわれていく場合があることから、速やかに行う必要があることを理解しているとともに、心肺蘇生法などの応急手当を適切に行う技能を身に付けている。	観察 テスト	・講義 ・保健体育ノート ・グループワーク	・原則や概念を理解し説明する。  ・自らの考えを整理し、他者に伝える。  ・自分の考えや集団の考えを発展させる。  ・他者の意見を解釈し自分の考えを深める。	特活 「クラスマッチ」
			② 思考・判断・表現 応急手当に関わる事象や情報から課題を発見し、傷害の悪化等を防止する方法を選択し、安全な社会の実現に向けてそれらを説明している。	観察 保健体育ノート			
			③ 主体的に学習に取り組む態度 応急手当についての学習に自主的に取り組もうとしている。	観察 保健体育ノート			
指導時間数の計		35					

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身につけるようにする。(知識及び技能) ○創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等) ○生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。(学びに向かう力、人間性)
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
音楽 I	2	全日制課程・普通科・1学年	MOUSA1(教育芸術社)

科目の目標	○曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。(知識及び技能) ○自己のイメージをもって音楽表現を創意工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。(思考力、判断力、表現力等) ○主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 ＜単元・題材の評価規準＞	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月～5月 2週目	○歌唱・日本の歌を歌おう	8	① 知識・技能 ・曲想と音楽の構造や歌詞について理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身につけ、歌唱で表している。 ② 思考・判断・表現 ・旋律、強弱を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図を持っている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・歌詞と旋律の関わりについて考え、表現意図を持って歌うことに関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート 実技テスト  ワークシート 発言  観察 発言	・言葉の抑揚と旋律がどのように関わり合っているかを理解する。 ・詩の情景や心情を踏まえながら表現意図を持って独唱する。 ・音楽を形づくっている要素を知覚しながら歌唱に取り組む。	・音楽を形づくっている要素とその働きについて意見を共有する。	
5月～6月	○器楽・ギターでポップスを弾こう	8	① 知識・技能 ・楽器の音色や奏法について理解している。 ・創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身につけ、器楽で表している。 ② 思考・判断・表現 ・音色、リズム、速度を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図を持っている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・ギターの音色や奏法を理解して演奏することに関心を持ち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート 実技テスト  ワークシート 発言  観察 発言	・ギターの正しい奏法を身につけて演奏する。 ・TAB譜およびダイアグラムの読み方を理解して、活動に取り組む。	・ベアになり、ギターの奏法や楽譜の読み方について互いに教授しあう。	
6月～7月	○歌唱/鑑賞・オペラに親しもう	7	① 知識・技能 ・音楽の特徴と文化的・歴史的背景、他の芸術との関わりについて理解している。 ② 思考・判断・表現 ・色、リズム、速度、旋律、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、自分や社会にとっての音楽の意味や価値、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽の良さや美しさを自ら味わって聴いている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・楽曲について楽器や声の特徴を感じ取るとともに、文化的・歴史的背景を理解することに関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート 発表  ワークシート 発言  観察 発言	・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じて鑑賞する。 ・楽器の音色や声の特徴と表現上の効果との関わりを感じ取って鑑賞する。 ・楽曲の文化的・歴史的背景や作曲家及び演奏者による表現の特徴を理解して鑑賞する。	・楽曲について音楽を形づくっている要素とその働きについて、知覚感受したことを共有する。 ・楽曲のイメージについて話し合う。	地歴における世界の歴史の展開に関して理解することとの関連
9月	○器楽・箏に挑戦しよう	10	① 知識・技能 ・楽器の音色や奏法について理解している。 ・創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な曲にふさわしい奏法、身体の使い方などの技能を身につけ、器楽で表している。 ② 思考・判断・表現 ・音色、リズム、速度を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図を持っている。 ③ 主体的に学習に取り組む態度 ・箏の音色や奏法を理解して演奏することに関心を持ち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。	ワークシート 実技テスト  ワークシート 発言  観察 発言	・箏の正しい奏法を身につけ、演奏する。 ・楽器の音色や奏法の特徴を感じながら活動に取り組む。	・ベアになり、箏の奏法や楽譜の読み方について教授しあう。	

10月	○歌唱・世界の歌曲に親しもう	7	<p>① 知識・技能 ・曲想と音楽の構造や歌詞、文化的・歴史的背景との関わり、言葉の特性と曲種に応じた発声との関わりについて理解している。 ・創意工夫を生かした歌唱表現をするために必要な、曲にふさわしい発声、言葉の発音、身体の使い方などの技能を身につけ、歌唱で表している。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・音色、リズム、速度、旋律、強弱を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように歌うかについて表現意図を持っている。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・外国語の発音に親しみ、言語の特徴や曲想にあった歌い方を身につけることに関心を持ち、主体的・協働的に歌唱の学習活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート 実技テスト	・イタリア語、ドイツ語の発音に親しみ、言語の特徴や曲想にあった発声の仕方を身につける。 ・シューベルトとヴェルナーの「野ばら」の音楽を知覚、感受しながら、歌詞の内容や曲想を味わって、それぞれの曲にふさわしい音楽表現を工夫する。	・音楽を形づくっている要素とその働きについて意見を共有する。	・地歴における他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚との関連 ・外国語における異文化への興味・関心を高めることとの関連
11月	○器楽・ハンドベルで演奏しよう	8	<p>① 知識・技能 ・様々な表現形態による器楽表現の特徴について理解している。 ・創意工夫を生かした器楽表現をするために必要な、他者との調和を意識して演奏する技能及び表現形態の特長を生かして演奏する技能を身につけ、器楽で表している。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・音色、リズム、速度、旋律、を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように演奏するかについて表現意図を持っている。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・音楽を形づくっている要素を知覚し、他者と協働して演奏することに関心を持ち、主体的・協働的に器楽の学習活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート 演奏発表	・楽曲の曲想や音楽を形づくっている要素を知覚し、他者と協働してハンドベルを演奏する。	・グループで演奏を反省、改善していく。	
12月	○鑑賞・楽器の特徴を捉えて鑑賞しよう	7	<p>① 知識・技能 ・曲想や表現上の効果と音楽の構造との関わりについて理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・音色、リズム、速度、テクスチャ、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを自ら味わって聴いている。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 音楽の構造や表現上の様々な効果を知覚感受して聴くことに関心を持ち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート 発表	・音楽を形づくっている要素を知覚し、それらの働きを感じて鑑賞する。 ・楽器の音色の特徴と表現上の効果との関わり感じ取って鑑賞する。 ・楽曲の文化的・歴史的背景や作曲家及び演奏者による表現の特徴を理解して鑑賞する。	・音楽を形づくっている要素とその働きについて意見を共有する。 ・楽曲の特徴と文化的・歴史的背景について調べ、グループでまとめる。	
1月～2月	○創作・オノマトペで創作しよう	8	<p>① 知識・技能 ・音素材、音を連ねたり重ねたりしたときの響き、音階や音型などの特徴及び構成上の特徴について、表したいイメージと関わらせて理解している。 ・創意工夫を生かした創作表現をするために必要な、反復、変化、対照などの手法を活用して音楽を作る技能を身に付け、創作で表している。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・リズム、速度、強弱、形式、構成を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、どのように音楽を作るかについて表現意図を持っている。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・音素材の特徴を生かして、工夫して音楽をつくることに関心をもち、主体的・協働的に創作の学習活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート 作品発表	・音素材の特徴を生かして、構成を工夫して音楽をつくる。 ・音楽を形づくっている要素とそれらの働きを理解して音楽をつくる。	・できあがった作品を共有し、批評し合う。	
2月～3月	○歌唱/鑑賞・日本の音楽を学ぼう	7	<p>① 知識・技能 ・我が国や郷土の伝統音楽の種類とそれぞれの特徴について理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・音色、リズム、旋律、テクスチャ、形式を知覚し、それらの働きを感じながら、知覚したことと感受したことの関わりについて考え、自分や社会にとっての音楽の価値や意味、音楽表現の共通性や固有性について考え、音楽の良さや美しさを自ら味わって聴いている。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 日本の民謡や伝統音楽について、音楽の特徴や文化的・歴史的背景を理解し、関心をもち、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。</p>	ワークシート 演奏発表	・日本の民謡および芸能について学び、音楽の特徴や歴史的・文化的背景について理解する。 ・民謡や伝統芸能を比較し、音楽の共通性や固有性について考える。	・楽曲を比較し、共通性や固有性について考え、意見を共有する。	・歴史における我が国の国土や歴史に対する愛情の自覚との関連
指導時間数の計		70					

学校の教育目標	<p>「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」</p> <p>1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。</p> <p>2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。</p> <p>3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。</p> <p>4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。</p> <p>5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。</p>
---------	--

教科の目標	<p>芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かさに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 芸術に関する各科目の特質について理解するとともに、意図に基づいて表現するための技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 創造的な表現を工夫したり、芸術のよさや美しさを深く味わったりすることができるようにする。</p> <p>(3) 生涯にわたり芸術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養い、豊かな情操を培う。</p>
-------	--

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
書道 I	2	全日制・普通科・第1学年	書道 I (光村図書)

科目の目標	<p>書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。</p> <p>(2) 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書的美を味わい捉えたりすることができるようにする。</p> <p>(3) 主体的に書の幅広い活動に取り組む、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。</p>
-------	--

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 <単元・題材の評価規準>	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月	書写から書道へ	8	<p>① 知識・技能 書道の分野や学習方法など、書道で学習することを理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 書道で学習することや古典の臨書に関心を持ち、主体的に取り組んでいこうとする態度を養っている。</p>	ワークシート   観察	<p>① 書道の三分野を確認し、臨書・鑑賞・創作の学習を通して、自己の創造的な表現に生かすことを理解する。</p> <p>② 臨書の方法、拓本に関する基礎的な知識を身に付ける。</p> <p>③ 楷書の基本的な点画の筆使いと、その組み立て方を確認し、「風花」を書く。</p>	グループ交流	
5～7月	漢字の書 唐の四大家に学ぶ、楷書の基本 A孔子廟堂碑 B九成宮醴泉銘 C雁塔聖教序 D顔氏家廟碑	10	<p>① 知識・技能 各書体に特有の字形や線質の特徴を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 漢字の書体の変遷を、文字を書く目的や用具・用材等の歴史的背景と合わせて理解している。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 漢字の書体の変遷や、その背景にある歴史や文化に関心を持ち、理解しようとしている。</p>	作品  ワークシート  ワークシート	<p>A～Dの四つのグループの文字を比較し、自分が好きなものを選ぶ。</p> <p>・その文字を選んだ理由や受ける印象を自由に発表する。</p> <p>・臨書する文字を観察し、向勢の構え、点画の長さ、文字の重心など、書写で学習した楷書とは異なる部分を中心に確認する。</p> <p>・用筆や字形を意識して臨書する。</p>	グループ交流	
9～10月	硬筆の学習 行書の基本を押さえよう「蘭亭序」 表現を広げよう「風信帖」	16	<p>① 知識・技能 臨書を通して「蘭亭序」の線質や点画の特徴を理解し、それを表現するための用筆・運筆の技法を理解している。</p> <p>② 思考・判断・表現 ・生活の中の書に求められる技法を学び、あらゆる生活場面で活用している。 ・書聖・王羲之と「蘭亭序」の書道的価値や、諸本の発生の経緯を理解したうえで「蘭亭序」の書風を的確に捉え、その美を感じている。</p> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度 ・「書道 I」で学習した内容を、生活に生かそうとしている。 ・行書の成立過程や、字形や用筆の特徴について、主体的に確認している。 ・「蘭亭序」に関心を持ち、その美を味わおうとしている。</p>	作品  ワークシート  作品・ワークシート	<p>・鉛筆・ボールペン・つけペン・サインペンなど様々な筆記具を用いて書写する。</p> <p>・行書を楷書と比較し、点画の丸み、連続・省略などの特徴を理解する。</p> <p>・臨書する文字を観察し、筆脈と抑揚、それに伴う点画の丸み、連続や省略、筆順の変化を確認する。</p> <p>・筆脈と抑揚を意識して臨書する。</p>		

11~12月	篆書・篆刻の学習	16	① 知識・技能 臨書を通して、篆書の点画の特徴を理解し、それを表現するための用筆・運筆の技法を理解している。	作品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・篆書の成立過程や小篆の公式書体としての性質を再確認する。</li> <li>・印の使い方や種類を理解する。</li> <li>・篆刻に必要な用具とその使い方を理解する。</li> <li>・篆書の基本的な用筆について学ぶ。</li> <li>・篆刻の用具・用材について理解させ、篆刻の仕方について学ぶ。</li> </ul>	作品の交流
			② 思考・判断・表現 篆書の特徴を的確に捉え、その美を感受している。	作品		
			③ 主体的に学習に取り組む態度 篆書の成立過程や、点画や用筆の特徴について、主体的に確認している。	ワークシート		
1~2月	仮名の成立と種類 文字の造形を学ぶ「蓬萊切」	10	① 知識・技能 ・古筆に基づく、基本的な線の表し方を理解し、その用筆・運筆の技法を理解している。 ・「蓬萊切」をもとに、用筆や仮名遣いの特徴など、古筆を鑑賞・臨書していくための基礎となる知識を理解している。	ワークシート	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の仮名が成立するまでに段階的に発生した仮名の種類と、それぞれの性質を理解する。</li> <li>・「蓬萊切」の鑑賞・臨書を通して、字形や線質の特徴を捉え、用筆・運筆の技法を習得する。</li> </ul>	
			② 思考・判断・表現 ・仮名の線質の特徴を捉え、それを表現するための用筆・運筆を理解している。 ・「蓬萊切」の書風を的確に捉え、その美を感受している。	作品		
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・仮名の基本的な用筆・運筆に関心をもっている。 ・「蓬萊切」に関心を持ち、その美を味わおうとしている。	作品 ワークシート		
3月	創作	10	① 知識・技能 書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。	作品	<ul style="list-style-type: none"> <li>・創作の手順に従い、これまで学んだ技法を生かし創作する。</li> </ul>	作品の交流
			② 思考・判断・表現 書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。	作品		
			③ 主体的に学習に取り組む態度 主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。	作品 観察		
指導時間数の計		70				

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自励心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	○英語表現の理解を深め、場面に応じた英語を使用することができる(知識及び技能) ○文法や語いの知識を深め、様々な英語表現を使いこなすことができる(思考力、判断力、表現力等) ○異文化への興味・関心を高め、コミュニケーションの基礎を養う(学びに向かう力、人間性等)
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名(出版社)
英語コミュニケーション I	4	全日制・普通科・1学年	VISTA English Communication I

CAN-DOリストに基づく年度末の学習到達目標	聞くこと(L) :何が話題とされているかを理解し、情報や考えなどの要旨を理解することができる。 読むこと(R) :教科書本文の大きな内容をつかむことができる。 話すこと[やりとり](SI) :相槌などの話し方を意識しながら身近な話題について意見を交換することができる。 話すこと[発表](SP) : 原稿などの準備をした上で、まとまった量のスピーチをすることができる。 書くこと(W) :自分のことについて理由や根拠を挙げて2〜3文程度の英文を書くことができる。
-------------------------	---

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元の目標	主な言語活動等	評価方法	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 2週目	GET READY	4	・中学校における基礎の確認	基本的な品詞の使い方を理解している。主部が判別できる。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
4月 2週～4週目	Lesson1 Colors of Spring	8	・お気に入りの場所についての文章を理解することができる。 ・be動詞と一般動詞の表現を使うことができる。	お気に入りの場所についてやり取りしたり、まとめたものを発表したりする。be動詞と一般動詞を使い分けるとともに、否定の形を理解する。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
5月 1週～2週目	Lesson2 Dick Bruna	8	・シンプルなデザインについて理解することができる。 ・be動詞・一般動詞の過去形の表現を使うことができる。	日常生活についてやり取りしたり、大切にしている人についてまとめて発表したりする。疑問詞を用いた疑問文と現在進行形の形を理解する。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
5月3週～4週目	Lesson2 Dick Bruna	10	・シンプルなデザインについて理解することができる。 ・be動詞・一般動詞の過去形の表現を使うことができる。	日常生活についてやり取りしたり、大切にしている人についてまとめて発表したりする。疑問詞を用いた疑問文と現在進行形の形を理解する。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
6月 1週～2週目	Lesson3 Interesting Sports	10	・珍しいスポーツについて理解することができる。 ・進行形の表現を使うことができる。	珍しいスポーツのことについてやり取りしたり、写真についてまとめて発表したりする。進行形を用いて、自分がしたことについて英語で説明する。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
6月 3週～4週目	Lesson3 Interesting Sports	10	・珍しいスポーツについて理解することができる。 ・進行形の表現を使うことができる。	珍しいスポーツのことについてやり取りしたり、写真についてまとめて発表したりする。進行形を用いて、自分がしたことについて英語で説明する。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
7月 1週～3週目	Lesson4 Pictograms	10	・ピクトグラムの誕生について理解することができる。 ・助動詞/動名詞の表現を使うことができる。	写真を参考にして、自分の考えをまとめて発表したりする。助動詞を用いた表現を理解する。動名詞を用いた重要表現を知る。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
9月1週～2週目	Lesson5 We Are Part of Nature	10	・不定詞の表現を使うことができる。	・好きな動物や描かれたイラストについてやり取りしたり、自然についてまとめて発表したりする。不定詞について理解し、概要や要点を捉える技能を身につける。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
9月3週目	Lesson5 We Are Part of Nature	10	・動物写真家の活動について理解することができる。 ・不定詞の表現を使うことができる。	・好きな動物や描かれたイラストについてやり取りしたり、自然についてまとめて発表したりする。不定詞について理解し、概要や要点を捉える技能を身につける。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
9月4週目	Lesson6 Machu Picchu	6	・世界遺産について理解することができる。 ・現在完了の表現を使うことができる。	世界遺産などについてやり取りしたり、マチュピチュについてまとめて発表したりする。現在完了について理解し、概要や要点を捉える技能を身につける。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
10月1週目～3週目	Lesson6 Machu Picchu	12	・世界遺産について理解することができる。 ・現在完了の表現を使うことができる。	世界遺産などについてやり取りしたり、マチュピチュについてまとめて発表したりする。現在完了について理解し、概要や要点を捉える技能を身につける。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
10月4週目～11月2週目	Lesson7 Artificial Intelligence	12	・AIの現状について理解することができる。 ・受け身の表現を使うことができる。	AIについてやり取りしたり、大切なものについてまとめて発表したりする。受け身を用いた表現を理解する。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
11月3週目～12月3週目	Lesson8 Is There a Santa Claus?	12	・サンタクロースの歴史や存在理由について理解することができる。 ・関係代名詞の表現を使うことができる。	サンタクロースについてやり取りしたり、それらをまとめて発表したりする。関係代名詞の構造を理解し、意味を推測する。関係代名詞を用いて、短い英文を書く。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
1月2週～4週目	Lesson9 Kids' Guernica	12	・世界平和に寄与した有名人について理解することができる。 ・名詞を修飾する分詞、関係副詞の表現を使うことができる。	平和に寄与した有名人、将来の夢などについてやり取りしたり、ピカソのゲルニカについてまとめて発表したりする。関係副詞について理解し、概要や要点を捉える技能を身につけている。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	
2月1週目～3週目	Lesson10 Ethical Fashion	6	・エシカルファッションについて理解することができる。 ・比較の表現を使うことができる。	比較を用いた表現を理解する。比較を用いて様々な物を比べる文を作る。	・活動の観察 ・小テスト(パート毎) ・定期考査 ・Writing課題 ・音読テスト	

指導時間数の計	140
---------	-----

学校の教育目標	「一人一人が自立し、幸せに満ちた学校」、「社会に貢献できる幅広い人材の育成」 1 「自立貢献」を目指す理念とし、教育的愛情を基盤とした教育活動を実践する。 2 確かな学力と表現する力の育成を図り、生徒一人一人に明確な目標を持たせ、個性と自立心を伸長させる。 3 自制心、向上心、共感性等を育てる教育活動を通して、非認知能力の育成に努め、地域や社会に貢献できる心豊かな人間を育成する。 4 特別活動等の活性化と魅力ある学校づくりを推進し、地域から信頼され、選ばれる学校を目指す。 5 生徒ひとりひとりの人権を尊重し、生徒・職員が相互に人格を認め合ういじめのない環境をつくる。
---------	---

教科の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 情報と情報技術及びこれらを活用して問題を発見・解決する方法について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについての理解を深めるようにする。 (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。
-------	---

科目名	単位数	課程・学科・学年	使用教科書名（出版社）
情報 I	2	全日制・普通科・1学年	最新情報 I（実教出版）

科目の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、情報技術を活用して問題の発見・解決を行う学習活動を通して、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 (1) 効果的なコミュニケーションの実現、コンピュータやデータの活用について理解を深め技能を習得するとともに、情報社会と人との関わりについて理解を深めるようにする。 (2) 様々な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題の発見・解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。 (3) 情報と情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に主体的に参画する態度を養う。
-------	---

時期 月 週 日	単元・題材名	指導 時数	単元・題材で育成する資質・能力 <単元・題材の評価規準>	評価方法	学習活動	主な言語活動	各教科等横断的な資質・能力の育成に関わる他教科等との関連
4月 ～5月	第1章 情報社会と私たち	6	① 知識・技能 ・データ、情報、知識の意味と相互の関係について説明することができる。 ・ビッグデータの意味について説明することができる。 ・情報化が進展する社会の特質について説明することができる。 ・情報社会と人間との関わりについて考え、理解する。 ・知的財産権の概要について説明することができる。 ・著作者および伝達者の権利についての法律を挙げることができる。 ・目的を達成するために、著作物を法にしたがって適切に利用する方法を説明することができる。 ・個人またはグループで創作した著作物を他者が利用できるように条件を付けて公開することができる。 ・著作権の例外規定や著作物の利用条件にしたがって、著作物を適切に利用することができる。 ・個人情報およびプライバシーの概念を理解し、保護や管理の方法について説明することができる。 ・個人情報の流出を防ぎ、適切に管理することができる。 ・POSシステム、電子マネー、電子決済の仕組みを実例を挙げて説明することができる。 ・人工知能、IoT、仮想現実や拡張現実についてそれぞれ説明することができる。	学習ノート 小テスト 定期考査	・情報社会の現状について理解する。 ・情報の特性について理解する。 ・情報のモラルと情報化が個人に及ぼす影響について理解する。 ・知的財産権について理解する。 ・他人の著作物を適切に利用したり、自分の著作物を公開したりする方法を理解する。 ・個人情報とプライバシーについて理解し、それらを保護する方法を身に付ける。 ・社会の中で利活用されている情報技術について理解する。 ・様々な情報技術について理解し、課題解決の方法について考える。	情報化社会のルールとマナーを再認識する。	地歴公民科との連携 芸術科との連携
	1 情報社会 2 情報社会の法規と権利 3 情報技術が築く新しい社会		② 思考・判断・表現 ・ビッグデータの活用例を挙げることができる。 ・情報の特性を活用した事例と、情報の特性によって生じる事例を挙げることができる。 ・SNSの活用など、不特定多数を対象としたコミュニケーションの注意点を挙げることができる。 ・情報と情報技術の活用により加害者にならないための注意点や被害者にならないための対策方法をそれぞれ挙げることができる。 ・知的財産権が産業や文化の発展に与えている影響について説明することができる。 ・他人や自分の個人情報とプライバシーを適切に取り扱う際の注意点を挙げることができる。				
			③ 主体的に学習に取り組む態度 ・情報社会の現状についてインターネット等で調べようとしている。 ・ネット依存等、情報化が個人に及ぼす影響について考え、自らの情報活用について振り返り、改善方法しようとしている。 ・問題を解決するために、知的財産を適切に活用し、主体的に創作活動に参画しようとしている。 ・社会の中の情報システムについて、興味や関心を持っている。 ・IoTや人工知能などの情報技術を社会の問題解決に役立てる方法を提案することができる。	学習ノート 小テスト 定期考査 レポート・発表			

6月 ～7月	第2章 メディアと情報デザイン	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアの機能について説明することができる。</li> <li>・様々なメディアを分類することができる。</li> <li>・メディアを活用したり、メディアを用いてコミュニケーションを図ったりすることができる。</li> <li>・電子メールSNSなど、インターネットを利用する各種メディアとその特性について説明することができる。</li> <li>・情報バリアフリー、ユニバーサルデザインの意味と目的について説明することができる。</li> <li>・Webアクセシビリティ、ユーザビリティの意味について説明することができる。</li> <li>・情報をわかりやすく伝達するための文字や図の表現の工夫、表やグラフ、配色の工夫など基本的な方法を理解している。</li> <li>・文書の基本的なレイアウト、文字のフォントやスタイルなどについて理解するとともに、実際に報告書やレポートを作成することができる。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・伝達する情報に応じて適切に表現メディアや情報メディアを選択して表現することができる。</li> <li>・情報の信憑性や信頼性について吟味し、情報の真意を読み解くことができる。</li> <li>・コミュニケーションの方法を発信者と受信者の人数、位置関係、同期性により分類することができる。</li> <li>・コミュニケーションの形態や特性を考え、コミュニケーションの目的に沿った方法を選択することができる。</li> <li>・適切かつ効果的にコミュニケーションを図るために、情報メディアを適切に選択することができる。</li> <li>・情報バリアフリーやユニバーサルデザインについて、身近な例を挙げるができる。</li> <li>・Webアクセシビリティやユーザビリティを高めるために、ユーザインタフェースを改善することができる。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報メディアや表現メディアを活用し、主体的に情報を発信することができる。</li> <li>・効果的なコミュニケーションや問題解決のために、主体的に情報を整理したり、わかりやすく伝達したり、操作性を高めたりする努力をしようとしている。</li> <li>・情報をわかりやすく伝達するために、文字や図、表やグラフなどを工夫して表現する学習活動を自ら進んで行い、評価を受けて改善を図ろうとしている。</li> <li>・わかりやすい報告書やレポートを作成するため、文書の構成やレイアウトについて自ら進んで工夫し、教員の助言や相互評価に基づいて改善しようとしている。</li> <li>・説得力のあるプレゼンテーションを行うため、スライドの作成やリハーサルに取り組み、フィードバックを行いながら、よりよいプレゼンテーションになるよう粘り強く準備を進めている。</li> </ul>	<p>学習ノート 小テスト 定期考査 レポート</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・メディアには種類があることを理解し、メディアの発達について知る。</li> <li>・メディアの特性について理解し、目的に応じたメディアを選択することができる。</li> <li>・コミュニケーションの形態には違いがあることを理解する。</li> <li>・インターネットを活用したコミュニケーションの特徴について理解する。</li> <li>・社会の中で利用されている情報デザインについて理解する。</li> <li>・情報を正確に、わかりやすく伝える方法について理解する。</li> <li>・報告書やレポート、論文を作成するための手順について理解する。</li> <li>・プレゼンテーションの手順とスライド作成について理解する。</li> <li>・Webページ作成の方法について理解する。</li> </ul>	<p>様々なコミュニケーション手段を活用し、意見交換を行う。</p>	<p>芸術科との連携</p>
	<p>1 メディアとコミュニケーション</p> <p>2 情報デザイン</p> <p>3 情報デザインの実践</p>	14	<p>学習ノート 小テスト 定期考査</p>			
9月～11月	第3章 システムとデジタル化 1 情報システムの構成	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータの構成や計算の仕組みについて説明することができる。</li> <li>・ソフトウェアの種類とその働きを説明することができる。</li> <li>・ハードウェア、OS、応用ソフトウェアの関係を説明することができる。</li> <li>・インタフェースの意味や種類について、例を挙げて説明することができる。</li> <li>・アナログとデジタルの概念とその違いを理解している。</li> <li>・データの圧縮の種類や仕組みを理解し、圧縮・解凍することができる。</li> <li>・2進数と情報量の関係について説明することができる。</li> <li>・論理回路による演算の仕組みについて説明することができる。</li> <li>・数値・文字の情報をデジタル化するための原理を説明することができる。</li> <li>・2進数の加算や減算をすることができる。</li> <li>・補数について説明することができる。</li> <li>・コンピュータでの数値計算の誤差について説明することができる。</li> <li>・音声の情報をデジタル化するための原理を説明することができる。</li> <li>・音声のデータ量を計算できる。</li> <li>・画像の情報をデジタル化するための原理を説明することができる。</li> <li>・静止画や動画等のデータ量を計算できる。</li> <li>・データ量から圧縮率を求めることができる。</li> </ul>	<p>学習ノート 小テスト 定期考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータの構成と動作の仕組みについて理解する。</li> <li>・ソフトウェアの種類とインターフェースについて理解する。</li> <li>・アナログとデジタルの違いについて理解する。</li> <li>・2進数と情報量の関係について理解する。</li> <li>・コンピュータの演算の仕組みを理解する。</li> <li>・数値や文字をデジタル化する方法を理解する。</li> <li>・コンピュータでの数値の計算方法について理解する。</li> <li>・音声をデジタルで表現する方法について理解する。</li> <li>・静止画や動画をデジタルで表現する方法について理解する。</li> <li>・情報のデータ量を小さくする方法について理解する。</li> </ul>	<p>情報機器の操作の習得</p>	<p>数学科との連携 理科との連携</p>
	2 情報のデジタル化	6	<p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータを構成する装置とその性能について興味・関心を示し、自分で調べようとしている。</li> <li>・コンピュータが計算する仕組みについて興味・関心を持ち、粘り強く理解しようとする。</li> <li>・スマートフォンなどの身近な情報機器について、性能の向上や発展的な活用の方法を考えようとしている。</li> <li>・情報のデジタル化について、より深く理解しようとしている。</li> <li>・コンピュータによる演算や数値計算の仕組みについて関心を示し、理解しようとしている。</li> <li>・データ量の計算について関心を持って取り組もうとしている。</li> <li>・数値・文字・音声・画像などのデジタル化された情報を、主体的かつ適切に取り扱おうとしている。</li> </ul>			
11月 ～12月						

9月～11月		<p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・コンピュータを構成する装置とその性能について興味・関心を示し、自分で調べようとしている。」</li> <li>・スマートフォンなどの身近な情報機器について、性能の向上や発展的な活用の方法を考えようとしている。</li> <li>・情報のデジタル化について、より深く理解しようとしている。</li> <li>・データ量の計算について関心を持って取り組もうとしている。</li> <li>・数値・文字・音声・画像などのデジタル化された情報を、主体的かつ適切に取り扱おうとしている。</li> </ul>	学習ノート 小テスト 定期考査			
11月～12月	<p>第4章 ネットワークとセキュリティ</p> <p>1 情報システムの構成 2 情報のデジタル化</p>	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・LANを構成する機器について、それらの役割を説明することができる。</li> <li>・インターネット通信の階層構造、各プロトコルの働きについて説明することができる。</li> <li>・WebサーバのIPアドレスを調べることができる。</li> <li>・IPアドレス、ドメイン名、ルーティングの基本的な仕組みや働きについて説明することができる。</li> <li>・WWWや電子メールなど、インターネットのサービスの内容と基本的な仕組みを説明することができる。</li> <li>・目的に応じて、適切にインターネットのサービスを選択して利用することができる。</li> <li>・通信データの転送速度とファイルを圧縮する意義について理解している。</li> <li>・コンピュータでファイルを圧縮することができる。</li> <li>・情報セキュリティの3つの基本的な考え方について説明することができる。</li> <li>・適切なパスワードを作成し、設定することができる。</li> <li>・情報セキュリティの3つの基本的な考え方について説明することができる。</li> <li>・不正アクセスなどサイバー犯罪の種類や内容、被害の実態、およびその対策方法について説明することができる。</li> <li>・情報セキュリティポリシーの概要や意義について説明することができる。</li> <li>・メッセージの送受信、デジタル署名、電子認証などに応用されている暗号化の方式と仕組みについてそれぞれ説明することができる。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目的に沿って、LANを構成する情報機器の接続を適切に考えることができる。</li> <li>・ファイルのデータを効率的に圧縮して転送することができる。</li> <li>・パスワードの設定と管理について考え、適切に判断して実行することができる。</li> <li>・適切なパスワードを作成し、設定することができる。</li> <li>・情報セキュリティの確保に向けて、目的に応じて、アクセス制御やフィルタリングなど適切な方法を選択することができる。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際に利用しているネットワークの構成について自ら調べ、問題を指摘してネットワークの改善につなげようとしている。</li> <li>・インターネットの仕組みやサービスに興味・関心を持ち、問題の解決に向けて、個人あるいはグループでネットワークの活用について検討しようとしている。</li> <li>・マルウェアやサイバー犯罪の被害に遭わないように、リスクを軽減するための対策を継続して行おうとしている。</li> <li>・情報セキュリティポリシーの必要性を感じている。</li> <li>・暗号の利用など、情報セキュリティを維持するための技術に関心を持っている。</li> <li>・暗号化などの理解のもと、安全に情報を送受信するための仕組みを実際に活用しようとしている。</li> <li>・情報セキュリティを維持するための対策を自ら進んで行うとともに、自分で振り返るとともに、教員の助言や相互評価に基づいて改善を図ろうとしている。</li> </ul>	<p>学習ノート 小テスト 定期考査</p> <p>学習ノート 小テスト 定期考査</p> <p>学習ノート 小テスト 定期考査</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報通信ネットワークの構成について理解する。</li> <li>・ネットワークを効率的に利用するための取り決めについて理解する。</li> <li>・Webページとメールの仕組みについて理解する。</li> <li>・ネットワークを通じてデータを効率よく転送する工夫について理解する。</li> <li>・脅威に対する様々な安全対策について理解する。</li> <li>・情報セキュリティを確保する方法と技術について理解する。</li> <li>・情報を安全に取り扱うための技術について理解する。</li> </ul>	ネットワークのしくみを調べる	
1月～2月	第5章 問題解決とその方法	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・問題や問題解決の意味、問題解決の手順について説明することができる。</li> <li>・データの種類と尺度水準について理解し、収集したデータを整理することができる。</li> <li>・表計算ソフトを用いて適切にデータの並べ替えや抽出などができる。</li> <li>・表計算ソフトで統計処理に用いる関数を活用してデータを処理することができる。</li> <li>・グラフの種類や機能を理解し、表計算ソフトを用いてデータをグラフ化することができる。</li> <li>・クロス集計、相関係数を用いた分析、回帰分析を行うことができる。</li> <li>・データベースの意味と必要性を理解し、事例としてリレーショナルデータベースの機能について説明することができる。</li> <li>・モデル化およびシミュレーションの意味について説明することができる。</li> <li>・縮尺モデルなど表現形式による分類、動的モデルなど対象の特性による分類など、モデルを分類することができる。</li> <li>・モデル化の基本的な手順について説明することができる。</li> <li>・問題を整理したり、構造を明らかにしたりするために、図的モデルを作成することができる。</li> <li>・動的に変化する現象のいくつかの事例について、図的モデルや数式モデルで表し、表計算ソフトウェアを用いて、グラフを作成することができる。</li> <li>・確率的モデルをコンピュータでシミュレーションする意義について説明することができる。</li> </ul>	学習ノート 小テスト 定期考査 表計算ソフト演習・課題提出	<ul style="list-style-type: none"> <li>・問題解決の手順について理解する。</li> <li>・問題を明確化する方法について理解する。</li> <li>・解決案を検討したり、整理・分析したりする方法について理解する。</li> <li>・合意形成を目指した解決案を決定する方法について理解する。</li> <li>・実行した解決案を評価する方法について理解する。</li> <li>・データを収集したり、整理したりする方法について理解する。</li> <li>・表計算ソフトの活用方法について理解する。</li> <li>・データを適切なグラフや図に表現する方法を理解する。</li> <li>・データ分析の手法について理解する。</li> <li>・データベースの種類とその仕組みについて理解する。</li> <li>・モデル化の意味と分類について理解する。</li> <li>・モデル化する手順と方法を理解し、様々なモデルを作成する。</li> <li>・シミュレーションの意義について理解し、確率的モデルのシミュレーションを行う。</li> <li>・問題解決のためにシミュレーションを活用する。</li> </ul>	問題解決のための様々な手法の習得をとおし、グループ等で各自の考えを述べる。	地歴公民科との連携 国語科との連携

1月～2月	1 問題解決 2 データの活用 3 モデル化 4 シミュレーション	<p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>問題発見のための現状分析の方法を考え、適切に選択できる。</li> <li>問題の解決案を検討するために必要な情報を収集・整理し、検討のための適切な資料を作成できる。</li> <li>個人あるいはグループで解決案を検討し、制約条件の中で最適な解決案を判断して決定できる。</li> <li>グループで合意を形成できるよう、適切な問題解決の計画を立案することができる。</li> <li>問題解決に適合した評価を計画・実施して、分析しやすく評価結果を纏めることができる。</li> <li>問題解決の目的や内容に適したデータを選択して収集する力がある。</li> <li>問題解決の目的や内容に沿って、適切に尺度水準を用いてデータの整理を行うことができる。</li> <li>問題解決の目的や条件にしたがって、表計算ソフトの関数を適切に適用してデータ処理を行うことができる。</li> <li>問題解決の目的に応じて、データをグラフ等で適切に可視化して表現する力がある。</li> <li>問題解決の目的に応じて、データ分析の手法を適切に選択し、分析結果を効果的に表現する力がある。</li> <li>リレーショナルデータベースとNoSQLの特徴を考慮して、格納するデータの性質や量に応じて選択できる。</li> <li>実際に使われているモデルについて検討し、表現形式や対象の特性で適切に分類することができる。</li> <li>表計算ソフトの関数を適切に選択・活用して、確率的モデルのシミュレーションをいくつか実行することができる。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>主体的に問題解決に取り組む貢献しようとしている。</li> <li>ブレインストーミングやグループディスカッション等、問題の発見・解決のためのグループでの活動には積極的に参画している。</li> <li>試行錯誤しながら、粘り強く問題の発見・解決に取り組んでいる。</li> <li>問題解決の結果を振り返り、積極的に自己評価や相互評価を行い、改善を図ろうとしている。</li> <li>問題の発見や解決のために、オープンデータの選択やサンプリングなど、データを主体的に収集しようとする。</li> <li>問題の発見や解決のために、オープンデータの選択やサンプリングなど、データを主体的に収集しようとする。</li> <li>問題解決のため、表計算ソフト等を用いて収集した情報を処理したり、グラフで可視化したりすることに興味を持っている。</li> <li>問題解決のためのデータ分析を、試行錯誤しながら粘り強く行うことができる。</li> <li>問題解決のためのデータ活用に関する取り組みを、データ分析の方法や分析結果の妥当性について、自己評価や相互評価で振り返り、改善しようとしている。</li> <li>現実の現象についてのモデル化に関心を持ち、自ら進んでモデル化を試みるなど、主体的に学習に取り組んでいる。</li> <li>作成したモデルに対し、目的を達成しているかの観点で自己評価、および相互評価を行ってモデルの改善に努めようとする。</li> <li>店舗の待ち行列など、具体的な事象のシミュレーションに関心を持ち、シミュレーションを用いた問題解決を意欲的に取り組む。</li> </ul>	学習ノート 小テスト 定期考査			
2月～3月	第6章 アルゴリズムとプログラム  1 プログラミングの方法 2 プログラミングの実践	<p>① 知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アルゴリズムとプログラムについてそれぞれ説明することができる。</li> <li>フローチャート、アクティビティ図、状態遷移図の描き方を理解している。</li> <li>アルゴリズムの基本制御構造（順次、選択、反復）の違いについて説明することができる。</li> <li>プログラミングの手順（設計→コーディング→テスト）を理解している。</li> <li>プログラミング言語のおもな種類とその特徴を理解している。</li> <li>変数を使用して選択構造や反復構造のプログラムを作成することができる。</li> <li>配列を使用して反復構造等のプログラムを作成することができる。</li> <li>関数の概念を理解して関数を使用し、簡単なプログラムを作成することができる。</li> <li>探索（線形探索、二分探索）および整列（バブルソート）のアルゴリズムを理解し、プログラムを作成することができる。</li> <li>アルゴリズムの評価の意義について理解し、探索のアルゴリズムの違いによる評価を行うことができる。</li> </ul> <p>② 思考・判断・表現</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>簡単なアルゴリズムを文章やフローチャート等の図で表現できる。</li> <li>基本制御構造（順次・選択・反復）を適切に用いて、簡単なアルゴリズムを表現できる。</li> <li>作成したフローチャート、または文章表記が正しいかどうか確かめられる。</li> <li>プログラミングの目的や実行するコンピュータの種類を考慮して適切なプログラミング言語を選択できる。</li> <li>データ量と計算量の変化からアルゴリズムを評価し、適切なアルゴリズムを選択することができる。</li> </ul> <p>③ 主体的に学習に取り組む態度</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>アルゴリズムやフローチャート等の表記に、興味や関心を示している。</li> <li>問題解決のためのアルゴリズムを考える学習に、主体的に取り組んでいる。</li> <li>プログラミング言語に興味を示し、実際に自ら活用している（活用した経験がある）。</li> <li>問題解決のためのアルゴリズムを考え、粘り強く試行錯誤しながらプログラムを作成することができる。</li> <li>問題解決のために作成したプログラムの記述を学習者間で相互評価し、改善してより効率的なプログラムを作成する努力を惜しまない。</li> </ul>	学習ノート 小テスト 定期考査 VBAによるプログラム作成	<ul style="list-style-type: none"> <li>アルゴリズムを用いてプログラムを表現する方法を理解する。</li> <li>プログラミング言語の種類とその特徴について理解する。</li> <li>変数を使用したプログラムを作成する。</li> <li>関数を使用したプログラムを作成する。</li> </ul>	プログラムの流れ考え、各自のプログラムの説明を行う。	
指導時間数の計		70				